

# 安全・健康・コミュニティに関する調査

## 報 告 書

平成 27 年 1 月

厚 木 市

## 調査の概要

1. 調査目的	3
2. 調査対象と調査方法	3
3. 配布・回収結果	3
4. 調査項目	3
5. 集計方法について	4
6. 回答者（世帯）の基本属性	4
7. 回答者（個人）の基本属性	5

## 調査結果の概要

1. 調査概要	9
2. アンケート調査結果の概要	9

## 調査結果の分析

1. 自宅外での事故やけがの状況	
(1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況	15
(2) 過去1年間にけがをした原因	16
(3) 過去1年間にけがをした場所	16
2. 自宅での事故やけがの状況	
(1) 過去1年間の自宅でのけがの状況	17
(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所	18
3. こども（15歳未満）の事故やけがの状況	
(1) 自宅外でのけがの状況	20
(2) 自宅でのけがの状況	21
4. 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態	
(1) 地域の治安の変化に対する意識	22
(2) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度	24
(3) 犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度	26
(4) 犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策の状況	28
(5) 犯罪防止のために重要と考える対策	29

# 目次

---

5 . 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況	
( 1 ) 自転車利用の概要	30
( 2 ) 自転車の利用・交通ルールの認知状況	31
( 3 ) 自転車利用時に感じる不安や危険	32
( 4 ) 自転車利用時のけがや事故の経験	34
( 5 ) 自転車利用時のけがや事故の状況、原因、場所	35
( 6 ) 自転車利用時にけがをした体の箇所と医療機関での治療状況	37
( 7 ) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること	38
( 8 ) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと	39
6 . 災害についての意識	
( 1 ) 不安を感じる災害	40
( 2 ) 災害対策の重要度	41
( 3 ) 災害に対する自己対策	42
( 4 ) 災害への自己対策をしていない理由	43
( 5 ) 非常用備蓄品の状況	43
7 . 「セーフコミュニティ」の認知状況	
( 1 ) 厚木市の取組の認知状況	44
( 2 ) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識	44
8 . 市民生活の安心・安全に関する意識	
( 1 ) 居住地域の安心・安全に関する意識	45
( 2 ) 近所付き合いと安心・安全に関する意識	48
調査票と集計結果	
世帯票	53
個人票	55



# 調査の概要



## 調査の概要

### 1. 調査目的

市民の安全・健康・コミュニティに対する考えやその現状を調査するとともに、集計、分析を行い、今後のセーフコミュニティ活動等の資料とすることを目的とする。

### 2. 調査対象と調査方法

平成 26 年 7 月 18 日現在、厚木市に住民登録している世帯主 7,000 人を無作為抽出（地域・年齢バランスを考慮）し、世帯主及び同居家族（世帯票 1 通+個人票 3 通同封）を対象とする。（配布・回収ともに郵送）

### 3. 配布・回収結果

配布対象 (調査実施期間)	配布数	有効回収数(%)	備考
厚木市内の世帯 (平成 26 年 8 月 1 日～19 日)	7,000 世帯	1,981 世帯(28.3%)	個人票回収数 3,733 票

### 4. 調査項目

【世帯票】(世帯主あるいは、それに代わる方が世帯を代表して記入)

- (1) 世帯属性(居住地区、居住年数、家族人数・構成、住居の種類)
- (2) 「セーフコミュニティ」について(認知、協働推進の必要性)
- (3) 厚木市の生活(満足度、近所付き合い～現状と今後の意向)
- (4) こどもの外傷実態(こどもの年齢、自宅外・自宅における外傷経験、外傷状況、付き添いの有無、医療機関への受診経験)

【個人票】(15 歳以上の世帯構成員全員が回答。世帯主も記入)

- (1) 自宅外における過去 1 年以内の外傷実態(外傷経験、医療機関への受診状況、外傷原因、外傷の場所)
- (2) 自宅における過去 1 年以内の外傷実態(外傷経験、医療機関への受診状況、一番大きな外傷原因、一番大きな外傷の場所)
- (3) 体感不安(1 年前と比べた体感治安、事例別の犯罪被害への不安、不安に感じる地域の状況、犯罪被害対策の実施状況、犯罪抑止対策の重要度)
- (4) 自転車利用(自転車の利用状況・目的・頻度、交通ルールの認知状況、不安や危険、過去 5 年以内のけがや事故の経験・状況、不安や危険を減少させるための取組・改善策)
- (5) 災害(災害不安、災害対策の重要度、自己対策、非常用備蓄品の状況)
- (6) 基本属性(性別、年齢)

## 5. 集計方法について

- (1) 集計結果を表すグラフには、回答者数 (n) も併せて表記する。
- (2) 無回答や不明な回答は除く。このため、項目により回答者数 (n) は異なる。
- (3) 複数回答の場合の回答者数 (n) は、設問に回答した人数を表記する。
- (4) 集計表およびグラフ中の構成比は、四捨五入の関係で合計が 100% とならないことがある。

## 6. 回答者 (世帯) の基本属性

### (1) 居住地区

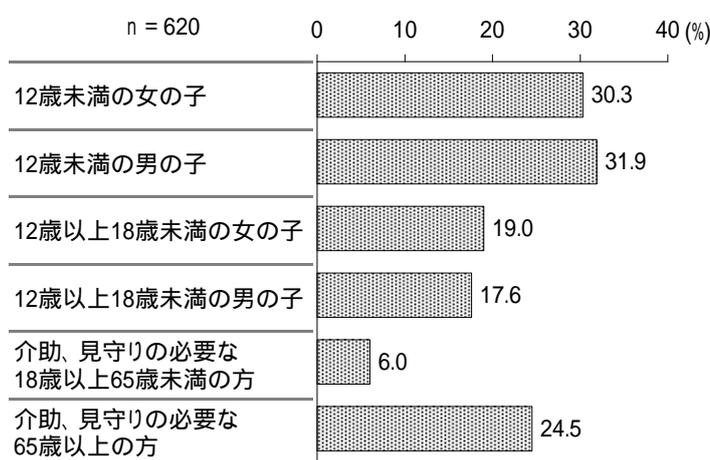
	n	構成比 (%)
厚木北	211	11.0
厚木南	180	9.4
依知北	115	6.0
依知南	100	5.2
睦合北	65	3.4
睦合南	160	8.4
睦合西	74	3.9
荻野	230	12.0
小鮎	128	6.7
南毛利	303	15.8
南毛利南	67	3.5
玉川	25	1.3
森の里	87	4.5
相川	106	5.5
緑ヶ丘	64	3.3
合計	1,915	100.0

### (2) 居住年数

	n	構成比 (%)
1年未満	88	4.5
1年以上5年未満	298	15.3
5年以上10年未満	248	12.7
10年以上15年未満	240	12.3
15年以上20年未満	162	8.3
20年以上	917	47.0
合計	1,953	100.0

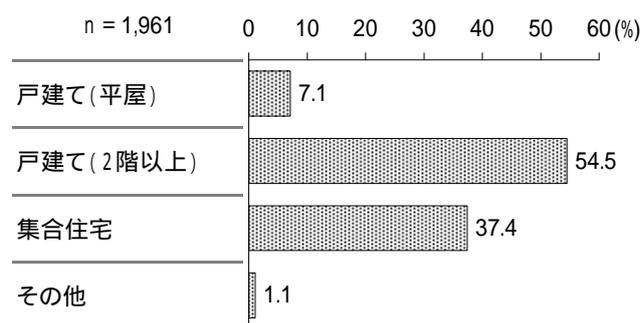
### (3) 家族構成

	n	構成比 (%)
1人	430	21.8
2人	658	33.4
3人	451	22.9
4人	265	13.4
5人	92	4.7
6人	55	2.8
7人	14	0.7
8人	6	0.3
9人	1	0.1
合計	1,972	100.0



### (4) 住居の種類

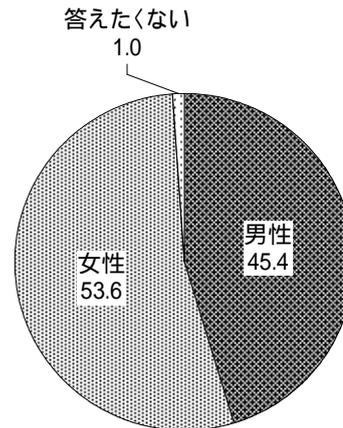
	n	構成比 (%)
戸建て (平屋)	139	7.1
戸建て (2階以上)	1,068	54.5
集合住宅	733	37.4
その他	21	1.1
合計	1,961	100.0



## 7. 回答者（個人）の基本属性

### (1) 性別

	n	構成比 (%)
男性	1,659	45.4
女性	1,957	53.6
答えたくない	38	1.0
合計	3,654	100.0



(n = 3,654)

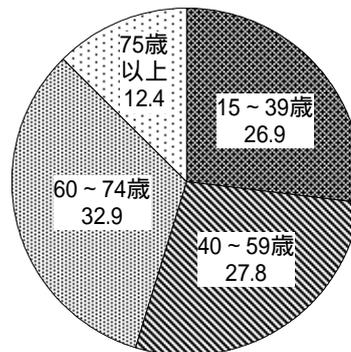
(%)

### (2) 性別（居住地区別）

	男性		女性		答えたくない	
	n	構成比(%)	n	構成比(%)	n	構成比(%)
厚木北	162	43.2	209	55.7	4	1.1
厚木南	133	45.7	155	53.3	3	1.0
依知北	90	42.5	119	56.1	3	1.4
依知南	76	42.5	103	57.5	-	-
睦合北	55	45.8	65	54.2	-	-
睦合南	144	46.2	163	52.2	5	1.6
睦合西	65	47.1	73	52.9	-	-
荻野	195	46.8	216	51.8	6	1.4
小鮎	110	48.0	118	51.5	1	0.4
南毛利	260	44.9	311	53.7	8	1.4
南毛利南	60	46.2	70	53.8	-	-
玉川	21	45.7	22	47.8	3	6.5
森の里	70	70.0	83	54.2	-	-
相川	96	46.4	108	52.2	3	1.4
緑ヶ丘	45	45.5	54	54.5	-	-
合計	1,628	45.3	1,929	53.7	38	1.1

### (3) 年齢

	n	構成比 (%)
15～39歳	989	26.9
40～59歳	1,022	27.8
60～74歳	1,207	32.9
75歳以上	455	12.4
合計	3,673	100.0



(n = 3,673)

(%)



## 調査結果の概要



## 調査結果の概要

### 1. 調査概要

厚木市における「セーフコミュニティ」の取組を進めていくため、全市的な外傷動向及びハイリスクグループの特定や外傷発生メカニズムの解明、体感治安を構成する要素、「セーフコミュニティ」認証取得や市の取組の認知状況、継続推進の必要性、自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況、災害についての意識の把握を目的としたアンケート調査を実施した。

### 2. アンケート調査結果の概要

#### (1) 「セーフコミュニティ」の認知状況

- ・ 「セーフコミュニティ」の認知状況は、「知っている」が12.8%、「聞いたことがある」が43.1%となっており、認知度は55.9%となっている。平成23年度調査と比較すると、認知度は2.9ポイント増加している。
- ・ 今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」が59.8%、「どちらかという必要がある」が24.5%となっており、必要がある人の割合は84.3%となっている。平成23年度調査と比較すると、必要がある人の割合は3.6ポイント増加している。

#### (2) 市民生活の安心・安全に関する意識

- ・ 市全体では、居住地域が安心・安全かどうかについて、「そう思う」が20.4%、「どちらかといえばそう思う」が43.9%となっており、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は64.3%となっている。平成23年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は5.0ポイント増加している。
- ・ 現在の近所付き合いの状況別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、現在の近所付き合いが親密になるほど高くなっており、“互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度”では76.0%と高くなっている。
- ・ 現在の近所付き合いの状況は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が15.5%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が47.1%となっており、この2つを合わせた、ある程度の近所付き合いのある人の割合が62.6%となっている。
- ・ 今後の近所付き合いの意向では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が27.8%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が48.8%となっており、今後、より親密な近所付き合いを希望する人の割合が高くなっている。

#### (3) 自宅外での事故やけがの状況

- ・ 過去1年間に自宅外でけがをした人は13.7%となっており、このうち医療機関を利用した人は約半数の6.7%となっている。年齢階層別でみると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で17.3%と最も高く、次いで、75歳以上の後期高齢者で14.4%となっている。
- ・ 過去1年間にけがをした原因は、「転倒」が54.8%で最も高く、次いで「切傷・刺傷」で24.5%、「交通事故」で11.8%となっている。平成23年度調査と比較すると、上位3位は同様の項目となっており、「転倒」では14.0ポイント増加している。
- ・ 過去1年間にけがをした場所は、「道路・歩道」が44.1%で最も高く、次いで「勤務先」で23.5%、「スポーツ施設」で7.6%となっている。

#### (4) 自宅での事故やけがの状況

- ・ 過去1年間に自宅でけがをした人は11.2%となっており、このうち医療機関を利用した人は約3人に1人の3.7%となっている。年齢階層別で見ると、過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で16.0%と最も高く、次いで、40~59歳で11.5%となっている。
- ・ 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が45.8%で最も高く、次いで「転倒」で24.4%、「火傷」で7.7%となっている。平成23年度調査と比較すると、上位3位は同様の項目となっており、「切傷・刺傷」では5.6ポイント増加している。
- ・ 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が40.5%で最も高く、次いで「居室」で25.5%、「庭」で10.1%となっている。平成23年度調査と比較すると、全ての項目が同様の順位となっており、「居室」では4.9ポイント増加している。

#### (5) こども(15歳未満)の事故やけがの状況

- ・ 15歳未満のこどもがいる世帯の45.6%が自宅外で何らかのけがをしており、けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が17.7%で最も高く、次いで「学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)」で14.8%、「公園(ブランコ・すべり台・鉄棒)でのけが」で9.3%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)」、「交通事故(単独、自転車・自動車の乗車中)」、「建物や車両などのドアに挟まれたけが」で高くなっている。平成23年度調査と比較すると、「道路や歩道を走っていて転倒」は5.4ポイント、「学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)」は3.1ポイント、それぞれ増加している。
- ・ 15歳未満のこどもがいる世帯の27.2%が自宅で何らかのけがをしており、けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が13.9%で最も高く、次いで「廊下や浴室などでの転倒」で8.4%、「ベッドや椅子などから転落」で8.0%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」で高くなっている。平成23年度調査と比較すると、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」は2.4ポイント増加し、「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」は3.4ポイント減少している。

#### (6) 体感不安(犯罪被害等含む)に関する実態

- ・ 1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「良くなった」が4.7%、「変わらない」が71.9%、「悪くなった」が11.1%となっている。平成23年度調査と比較すると、「変わらない」は3.8ポイント増加している。居住地区別で見ると、1年前と比べた地域の治安が、「良くなった」は森の里と相川地区でともに8.3%と最も高く、次いで、睦合北地区で6.9%となっている。一方、「悪くなった」は南毛利南と緑ヶ丘地区でともに18.5%と最も高く、次いで、玉川地区で15.6%となっている。
- ・ 犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震や風水害にあう不安」が42.2%で最も高く、次いで「子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安」で39.4%となっている。平成23年度調査と比較すると、「自動車内の部品や金品を盗まれる不安」は6.8ポイント、「自動車やオートバイを盗まれる不安」は6.1ポイント、それぞれ減少している。
- ・ 犯罪等被害に合う不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「人通りの少ない道」が34.9%で最も高く、次いで「夜、街灯が暗いところがある」で34.2%となっている。平成23年度調査と比較すると、全ての項目で減少しており、「少年などのたむろ、たまり場がある」では6.4ポイント、「路上への違法駐車や放置自転車がある」では6.1ポイント、それぞれ減少

している。

- ・ 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が93.4%で最も高く、次いで「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」で42.3%、「自転車の防犯登録」で41.5%となっている。平成23年度調査と比較すると、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」は5.0ポイント増加し、引き続き1位となっている。また、「特になにもしていない」は15.2ポイント減少している。
- ・ 犯罪防止のために重要と考える対策で、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「警察の防犯活動の充実」が97.3%で最も高く、次いで「個人の防犯対策」で97.1%、「市民と行政との協働による犯罪抑止への取組」で94.6%となっている。

#### (7) 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

- ・ 自転車の利用状況は、「利用している」が42.0%、「利用していない」が58.0%となっている。
- ・ 自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が48.4%で最も高く、次いで「通勤・通学」が29.9%、「余暇活動」が14.5%となっている。
- ・ 自転車の利用頻度は、「ほぼ毎日」が29.7%で最も高く、次いで「週に3～5回」が23.0%、「週に1～2回」が19.7%となっており、利用頻度が高くなるほど割合が高くなっている。年齢階層別でみると、「ほぼ毎日」は15～39歳で37.1%と高く、「週に3～5回」は75歳以上の後期高齢者で33.3%と高くなっている。
- ・ 自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」が99.1%で最も高く、次いで「夜間はライトを点灯」が97.7%、「二人乗りの禁止(6歳未満の子ども一人の場合を除く)」が94.3%となっている。
- ・ 自転車利用時に感じる不安や危険は、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が55.7%で最も高く、次いで「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が53.7%となっている。
- ・ 過去5年間で自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が15.1%、「ない」が84.9%となっている。
- ・ けがや事故がおきた時期は、「今年(2014年)」が26.8%で最も高く、次いで「平成25年(2013年)」が16.6%となっている。
- ・ けがや事故がおきた時間帯は、「昼間(通勤・通学時間以外)」が39.8%で最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」と「夕方の帰宅時間帯」が21.4%となっている。
- ・ 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が55.6%で最も高く、次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が20.8%、「自転車同士で接触・衝突した」が17.4%となっている。
- ・ けがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が34.1%で最も高く、次いで「道路が狭かった」が20.7%、「出会いがしらでの衝突」が16.3%となっている。
- ・ けがや事故がおきた場所は、「歩道」が43.8%で最も高く、次いで「車道」が31.7%、「交差点」が13.0%となっている。
- ・ 過去5年間で自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が48.8%で最も高く、次いで「腕部」が36.7%、「頭部」が7.7%となっている。
- ・ 医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が30.3%、「入院して手当を受けた」が4.0%となっており、医療機関を利用した人は34.3%となっている。一方、「医療機関には行ってない」は

65.7%となっている。

- ・ 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が87.8%で最も高く、次いで「交通ルール、マナーを守る」が85.2%、「自転車の防犯登録」が68.4%となっている。
- ・ 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が65.1%で最も高く、次いで「交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する」が61.4%となっている。

#### (8) 災害についての意識

- ・ 不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震による被害」で76.4%と最も高く、次いで「風水害(台風・豪雨・竜巻)」で54.5%、「火災」で49.4%となっている。
- ・ 災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が96.7%で最も高く、次いで「行政(市、消防、警察など)による応急活動」で96.6%、「災害弱者や要援護者の支援体制」で96.3%となっており、全ての項目で80%を超えている。
- ・ 災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が78.9%で最も高く、次いで「火災警報器の設置」が62.0%、「家族との連絡方法の確認」が53.3%となっている。
- ・ 災害への自己対策をしていない理由は、「これからやろうと思っている」が32.9%で最も高く、次いで「どのようなことをすればよいのか分からないから」が29.0%、「対策をする時間がなく、面倒だから」が28.6%となっている。
- ・ 非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が32.8%で最も高くなっており、非常用備蓄品を備蓄している人は、77.9%となっている。

# 調査結果の分析



## 調査結果の分析

### 1. 自宅外での事故やけがの状況

#### (1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況

過去1年間に自宅外でけがをした人は13.7%、このうち2人に1人が医療機関を利用した

過去1年間に自宅外でけがをした人は13.7%となっており、このうち医療機関を利用した人は約半数の6.7%となっている。

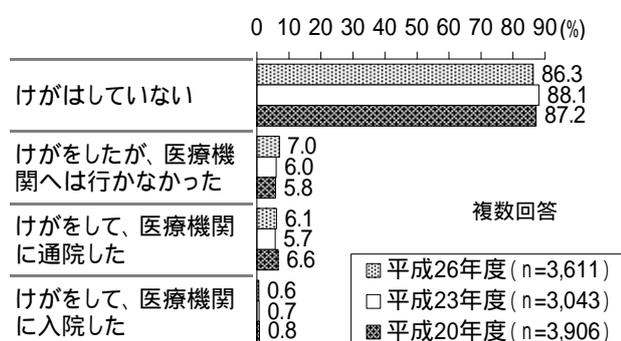
過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、平成23年度調査より1.3ポイント、平成20年度調査より0.5ポイント、それぞれ増加している。

過去1年間に自宅外でけがをした人は15～39歳で17.3%と最も高い

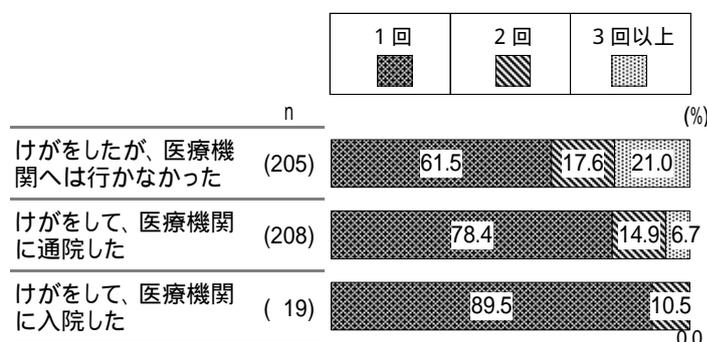
年齢階層別でみると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で17.3%と最も高く、次いで、75歳以上の後期高齢者で14.4%となっている。

年齢階層別を平成23年度調査と比較すると、「けがをしたが、医療機関へは行かなかった」は、15～39歳で2.3ポイント増加している。

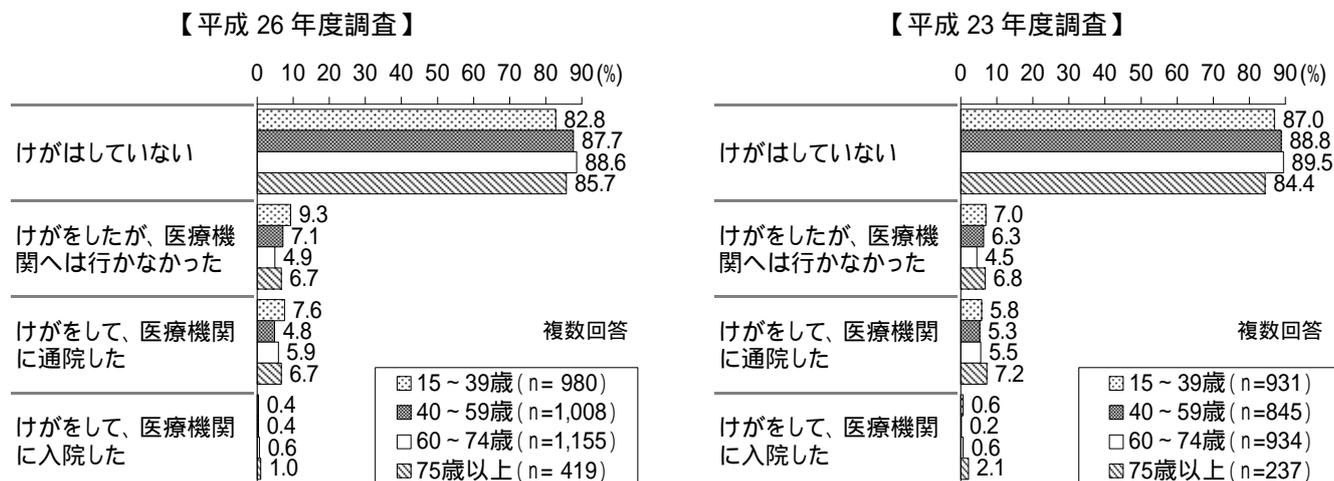
図表1-1 過去1年間の自宅外でのけがの状況  
(経年比較)



図表1-2 自宅外でけがをした際の医療機関の利用状況



図表1-3 過去1年間の自宅外でのけがの状況(年齢階層別)



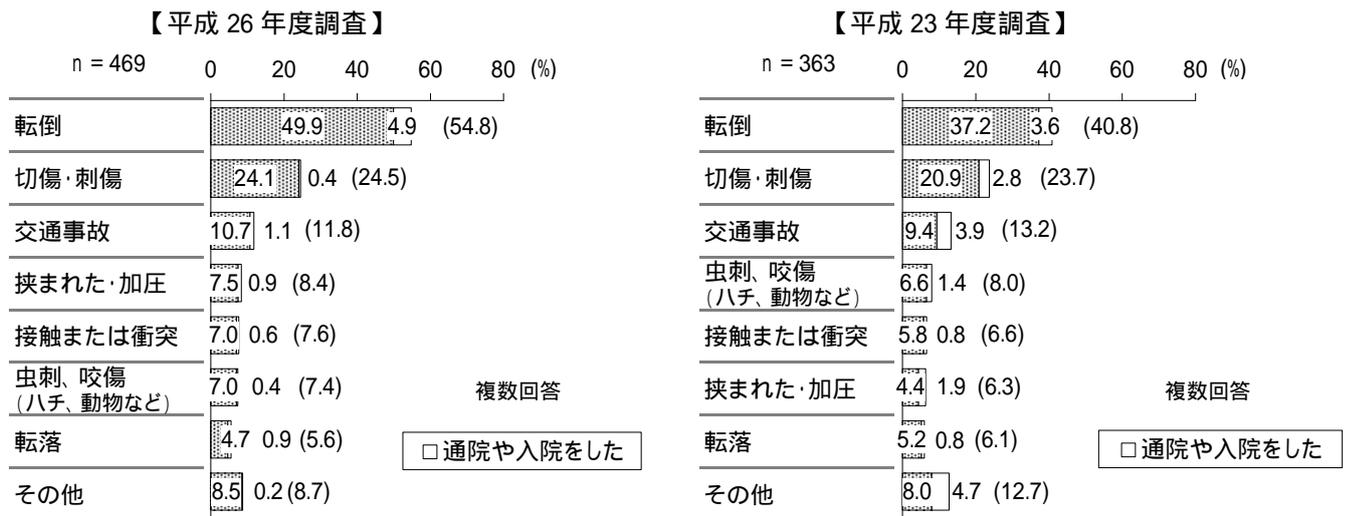
(2) 過去1年間にけがをした原因

過去1年間にけがをした原因は、「転倒」が54.8%で最も高く、平成23年度調査より14.0ポイント増加

過去1年間にけがをした原因は、「転倒」が54.8%で最も高く、次いで「切傷・刺傷」で24.5%、「交通事故」で11.8%となっている。

平成23年度調査と比較すると、上位3位は同様の項目となっており、「転倒」では14.0ポイント増加している。

図表1-4 過去1年間にけがをした原因（経年比較）



(3) 過去1年間にけがをした場所

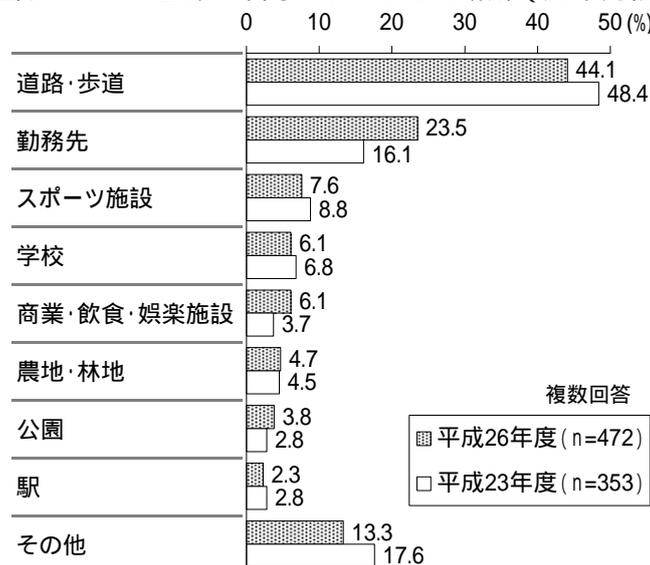
過去1年間にけがをした場所は、「道路・歩道」が44.1%で最も高い

「勤務先」は平成23年度調査より7.4ポイント増加

過去1年間にけがをした場所は、「道路・歩道」が44.1%で最も高く、次いで「勤務先」で23.5%、「スポーツ施設」で7.6%となっている。

平成23年度調査と比較すると、上位4位は同様の項目となっており、「勤務先」では7.4ポイント増加している。一方、「道路・歩道」では4.3ポイント減少している。

図表1-5 過去1年間にけがをした場所（経年比較）



## 2. 自宅での事故やけがの状況

### (1) 過去1年間の自宅でのけがの状況

過去1年間に自宅でけがをした人は11.2%、このうち3人に1人が医療機関を利用した

過去1年間に自宅でけがをした人は11.2%となっており、このうち医療機関を利用した人は約3人に1人の3.7%となっている。

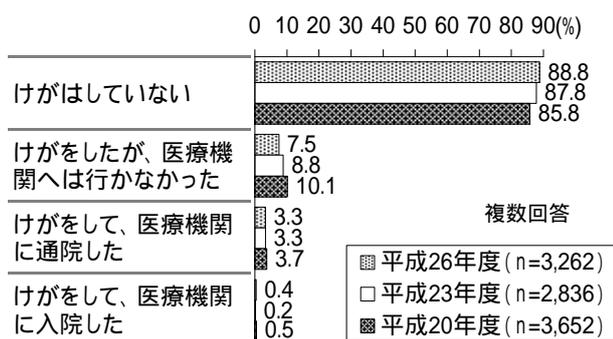
過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅でけがをした人は、平成20年度調査以降減少傾向にあり、平成23年度調査より1.1ポイント減少している。

過去1年間に自宅でけがをした人は75歳以上の後期高齢者で16.0%と最も高い

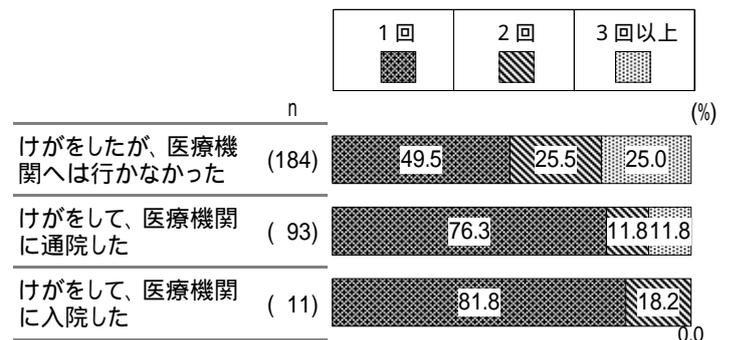
年齢階層別でみると、過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で16.0%と最も高く、次いで、40～59歳で11.5%となっている。

年齢階層別を平成23年度調査と比較すると、75歳以上の後期高齢者で、「けがをしたが、医療機関へは行かなかった」は1.9ポイント減少しており、「けがをして、医療機関に通院した」でも1.9ポイント減少している。

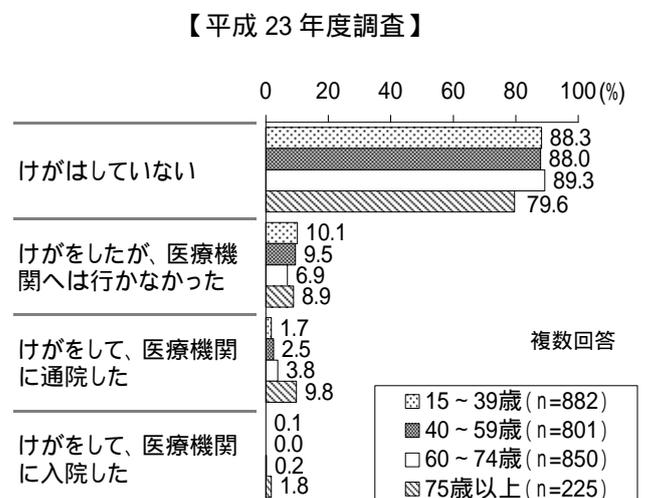
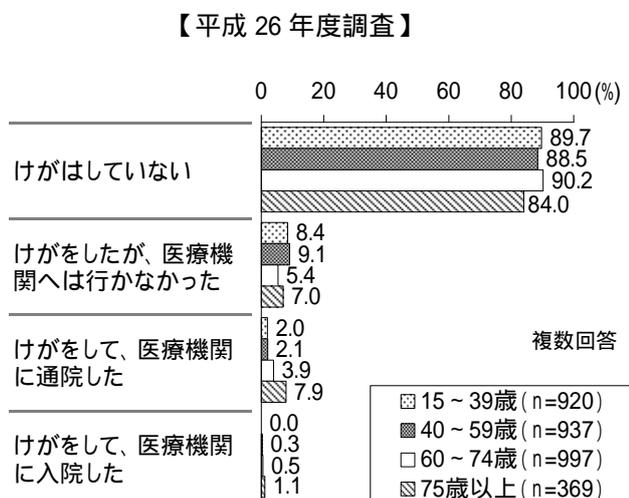
図表2-1 過去1年間の自宅でのけがの状況 (経年比較)



図表2-2 自宅でけがをした際の医療機関の利用状況



図表2-3 過去1年間の自宅でのけがの状況 (年齢階層別、経年比較)



(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が45.8%で最も高い

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が45.8%で最も高く、次いで「転倒」で24.4%、「火傷」で7.7%となっている。

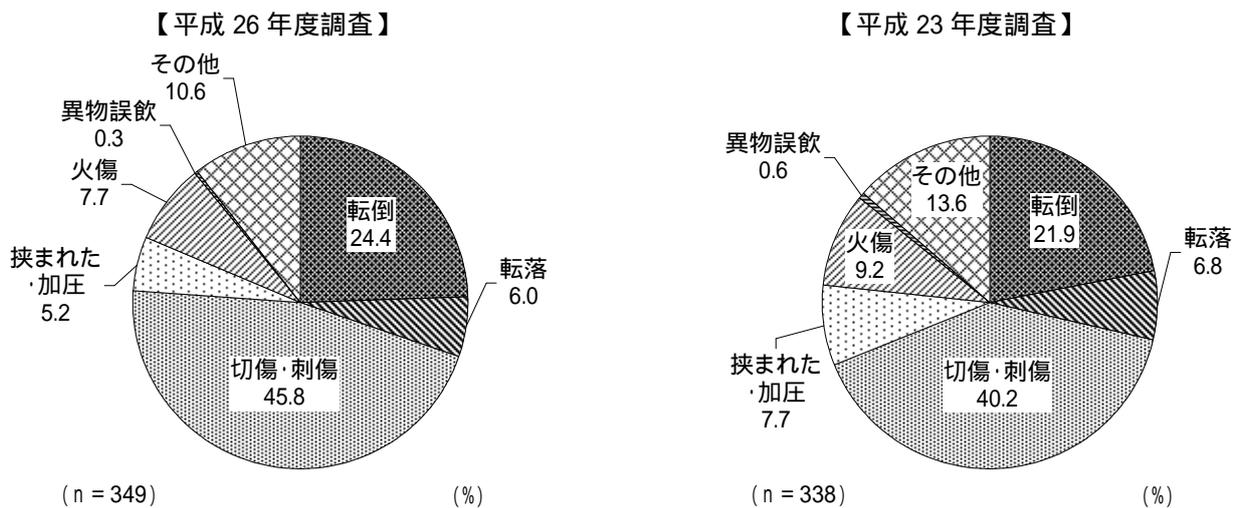
平成23年度調査と比較すると、上位3位は同様の項目となっており、「切傷・刺傷」では5.6ポイント増加している。

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が40.5%で最も高い

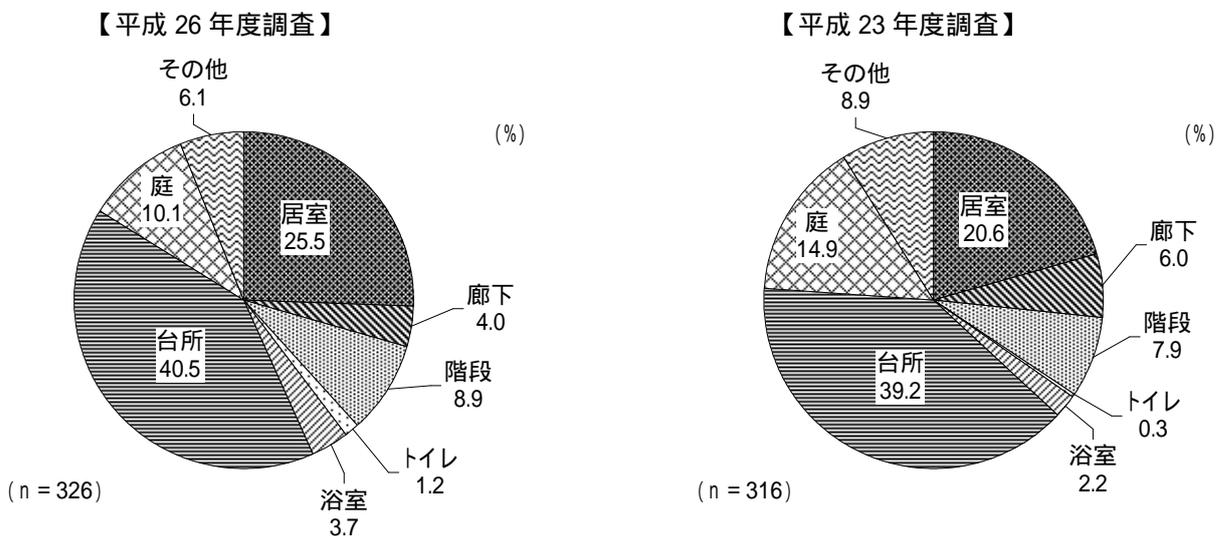
過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が40.5%で最も高く、次いで「居室」で25.5%、「庭」で10.1%となっている。

平成23年度調査と比較すると、全ての項目が同様の順位となっており、「居室」では4.9ポイント増加している。

図表2-4 自宅でのけがの原因（経年比較）



図表2-5 自宅でけがをした場所（経年比較）



図表 2 - 6 けがをした場所とけがの原因の関係（経年比較）- 上位 3 項目

【平成 26 年度調査】

(件)

項目 順位	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・ 加圧	火傷	異物誤飲	その他
1 位	居室 27	階段 9	台所 94	居室 9	台所 21	台所 1	居室 14
2 位	階段 14	居室 3	居室 26	台所 5	居室 3	/	台所 5
3 位	庭 8	庭 3	庭 15	廊下 2	庭 1		庭 5

【平成 23 年度調査】

(件)

項目 順位	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・ 加圧	火傷	異物誤飲	その他
1 位	居室 21	階段 13	台所 82	居室 11	台所 26	居室 1	居室 13
2 位	庭 15	庭 3	庭 13	廊下 3	居室 2	/	庭 11
3 位	廊下 8	居室 2	居室 11	台所 / 庭 2	庭 1		その他 9

### 3. こども（15歳未満）の事故やけがの状況

#### (1) 自宅外でのけがの状況

15歳未満のこどもがいる世帯の45.6%が自宅外で何らかのけがをしている  
けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が17.7%で最も高く、平成23年度調査より5.4ポイント増加

15歳未満のこどもがいる世帯の45.6%が自宅外で何らかのけがをしており、けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が17.7%で最も高く、次いで「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」で14.8%、「公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが」で9.3%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」、「交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）」、「建物や車両などのドアに挟まれたけが」で高くなっている。

平成23年度調査と比較すると、「道路や歩道を走っていて転倒」は5.4ポイント、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」は3.1ポイント、それぞれ増加している。

図表3-1 自宅外でのけがの状況（経年比較）

#### 【平成26年度調査】

	けがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)
全 体	344	100.0	107	31.1	59	17.2
道路や歩道を走っていて転倒	61	17.7	42	68.9	7	11.5
学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）	51	14.8	30	58.8	23	45.1
公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが	32	9.3	19	59.4	5	15.6
保育園・幼稚園でのけが・事故	24	7.0	20	83.3	9	37.5
動物や虫などによるけが	13	3.8	9	69.2	3	23.1
交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）	12	3.5	1	8.3	5	41.7
階段や高所からの転落	12	3.5	9	75.0	2	16.7
人や物（例：電柱等）に衝突	11	3.2	8	72.7	1	9.1
建物や車両などのドアに挟まれたけが	3	0.9	3	100.0	3	100.0
海や川、プールなどでおぼれた	-	-	-	-	-	-
その他	16	4.7	9	56.3	10	62.5
けがはしていない	187	54.4				

複数回答

#### 【平成23年度調査】

	けがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)
全 体	342	100.0	87	25.4	48	14.0
道路や歩道を走っていて転倒	42	12.3	34	81.0	3	7.1
学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）	40	11.7	22	55.0	18	45.0
公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが	26	7.6	17	65.4	2	7.7
保育園・幼稚園でのけが・事故	24	7.0	16	66.7	9	37.5
交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）	18	5.3	6	33.3	9	50.0
動物や虫などによるけが	18	5.3	8	44.4	6	33.3
人や物（例：電柱等）に衝突	13	3.8	9	69.2	2	15.4
階段や高所からの転落	7	2.0	4	57.1	4	57.1
建物や車両などのドアに挟まれたけが	6	1.8	4	66.7	1	16.7
海や川、プールなどでの溺水	1	0.3	1	100.0	1	100.0
その他	8	2.3	4	50.0	2	25.0
けがはしていない	212	62.0				

複数回答

「大人がいた」と「医療機関に行った」の構成比は、各項目の「けがをした状況」を母数とした「けがをした」の回答数が高い順

(2) 自宅でのけがの状況

15歳未満の子どもがいる世帯の27.2%が自宅では何らかのけがをしている  
けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が13.9%で最も高く、平成  
23年度調査より2.4ポイント増加

15歳未満の子どもがいる世帯の27.2%が自宅では何らかのけがをしており、けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が13.9%で最も高く、次いで「廊下や浴室などでの転倒」で8.4%、「ベッドや椅子などから転落」で8.0%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」で高くなっている。

平成23年度調査と比較すると、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」は2.4ポイント増加し、「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」は3.4ポイント減少している。

図表3-2 自宅でのけがの状況（経年比較）

【平成26年度調査】

複数回答

	けがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)
全 体	323	100.0	70	21.7	22	6.8
家具や物に体をぶつけるなどの衝突	45	13.9	37	82.2	4	8.9
廊下や浴室などでの転倒	27	8.4	25	92.6	4	14.8
ベッドや椅子などから転落	26	8.0	25	96.2	3	11.5
刃物や鋭利なものによるけが	13	4.0	8	61.5	3	23.1
階段から転落	12	3.7	8	66.7	2	16.7
ドアや窓、家具などで挟まれたけが	12	3.7	7	58.3	-	-
動物や虫などによるけが	8	2.5	4	50.0	2	25.0
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	7	2.2	5	71.4	3	42.9
入浴中の溺水	4	1.2	4	100.0	-	-
たばこやおもちゃなどの異物誤飲	3	0.9	3	100.0	-	-
ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	2	0.6	1	50.0	-	-
就寝中の窒息	-	-	-	-	-	-
その他	3	0.9	2	66.7	3	100.0
けがはしていない	235	72.8				

【平成23年度調査】

複数回答

けがをした状況	けがをした		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)	n	構成比 (%)
全 体	322	100.0	71	22.0	24	7.5
家具や物に体をぶつけるなどの衝突	37	11.5	27	73.0	4	10.8
ベッドや椅子などから転落	24	7.5	21	87.5	4	16.7
ドアや窓、家具などで挟まれたけが	23	7.1	20	87.0	4	17.4
廊下や浴室などでの転倒	21	6.5	17	81.0	1	4.8
動物や虫などに咬まれた（刺された）けが	16	5.0	7	43.8	3	18.8
刃物や鋭利なものによるけが	11	3.4	6	54.5	2	18.2
階段から転落	7	2.2	3	42.9	2	28.6
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	7	2.2	7	100.0	2	28.6
たばこやおもちゃなどの異物誤飲	4	1.2	2	50.0	3	75.0
ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	2	0.6	2	100.0	0	0.0
入浴中の溺水	1	0.3	1	100.0	0	0.0
就寝中の窒息	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	3	0.9	3	100.0	3	100.0
けがはしていない	226	70.2				

「大人がいた」と「医療機関に行った」の構成比は、各項目の「けがをした状況」を母数とした「けがをした」の回答数が高い順

#### 4. 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

##### （1）地域の治安の変化に対する意識

1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「変わらない」が71.9%で最も高く、平成23年度調査より3.8ポイント増加

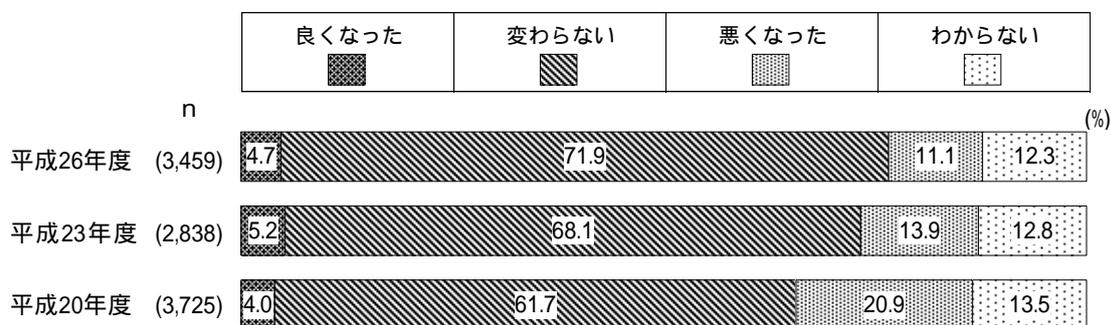
1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「良くなった」が4.7%、「変わらない」が71.9%、「悪くなった」が11.1%となっている。

過年度調査と比較すると、「変わらない」は平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成23年度調査より3.8ポイント増加している。一方、「悪くなった」は平成20年度調査以降減少傾向にある。

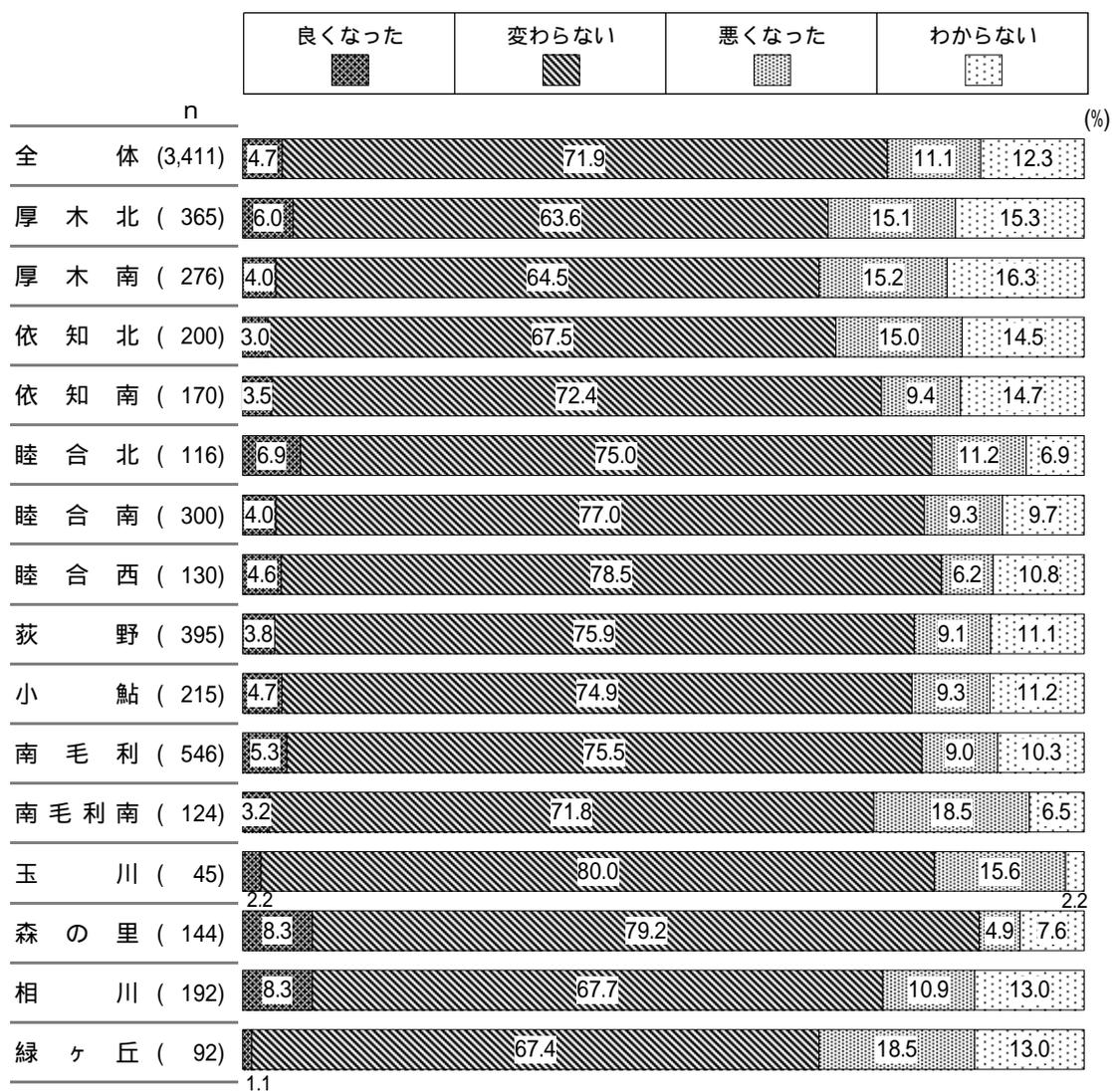
居住地区別では、「良くなった」は森の里と相川地区でともに8.3%と最も高く、「悪くなった」は南毛利南と緑ヶ丘地区でともに18.5%と最も高い

居住地区別で見ると、1年前と比べた地域の治安が、「良くなった」は森の里と相川地区でともに8.3%と最も高く、次いで、睦合北地区で6.9%となっている。一方、「悪くなった」は南毛利南と緑ヶ丘地区でともに18.5%と最も高く、次いで、玉川地区で15.6%となっている。

図表4-1 地域の治安の変化に対する意識（経年比較）



図表 4 - 2 地域の治安の変化に対する意識（居住地区別）



(2) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度

犯罪等被害や不安を感じる事項は、「地震や風水害にあう不安」が42.2%で最も高い

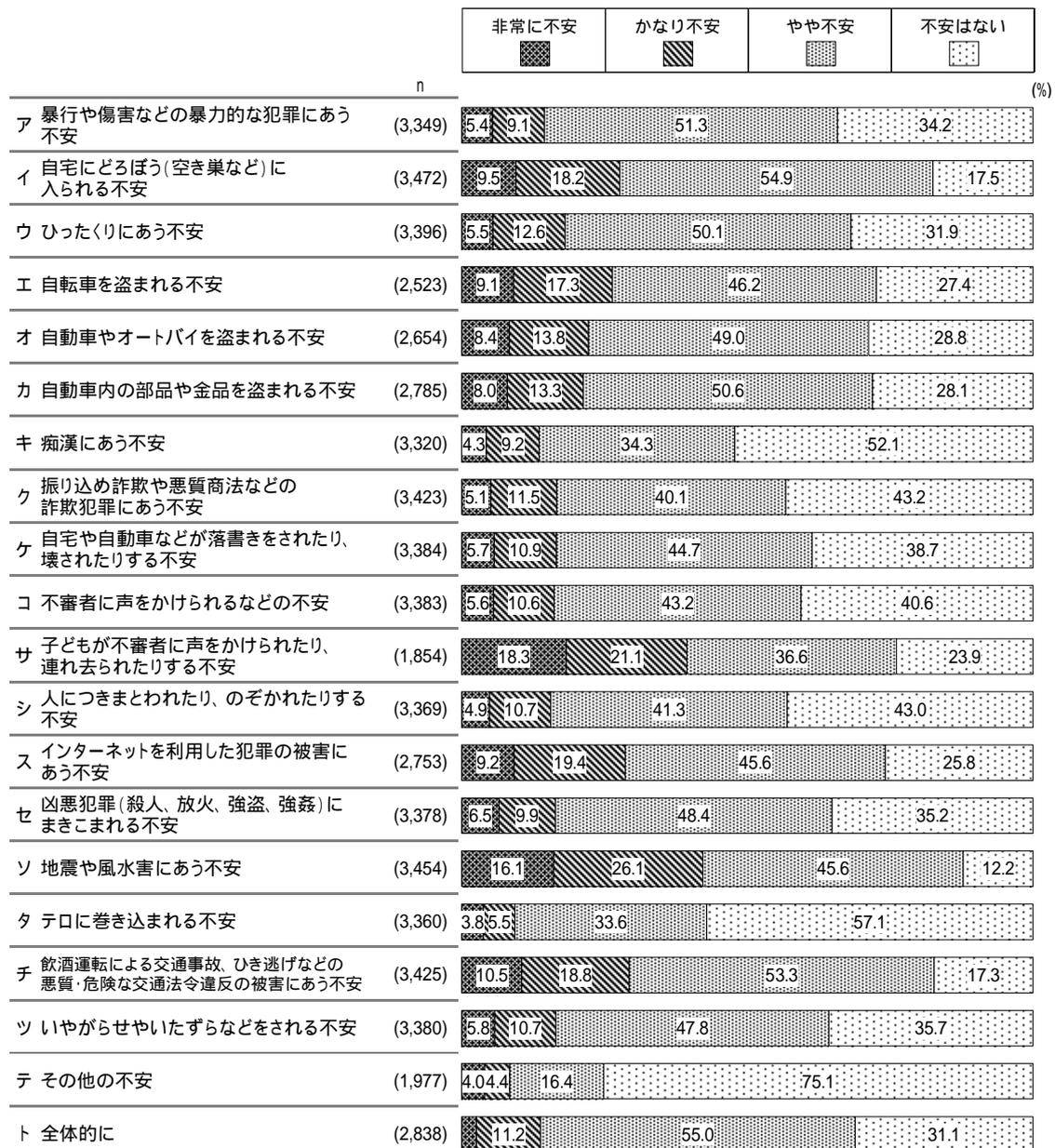
犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震や風水害にあう不安」が42.2%で最も高く、次いで「子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安」で39.4%となっている。

過年度調査と比較すると、平成23年度調査より「自動車内の部品や金品を盗まれる不安」は6.8ポイント、「自動車やオートバイを盗まれる不安」は6.1ポイント、それぞれ減少しており、平成20年度調査以降減少傾向にある。

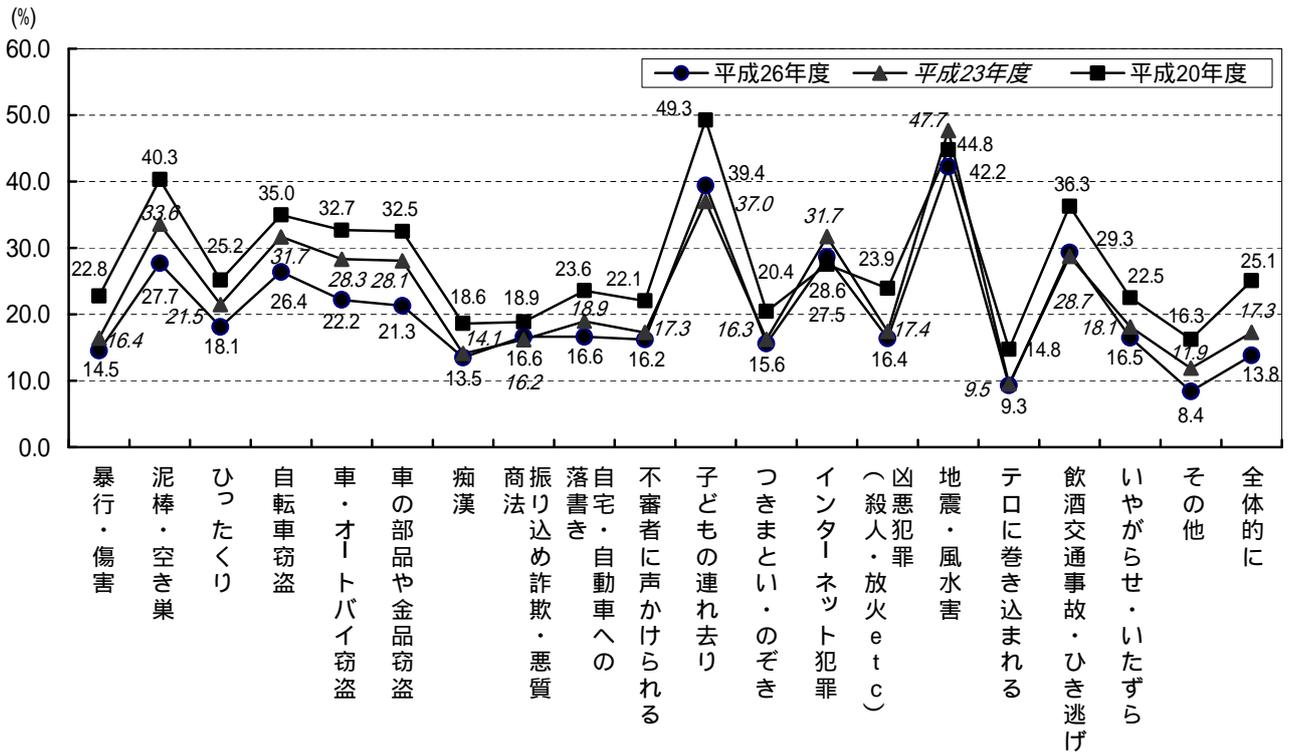
性別では、女性が男性より「子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安」で18.5ポイント、「地震や風水害にあう不安」で12.8ポイント、それぞれ高い

性別で見ると、犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、女性が男性より「子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安」で18.5ポイント、「地震や風水害にあう不安」で12.8ポイント、それぞれ高くなっている。

図表4-3 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度

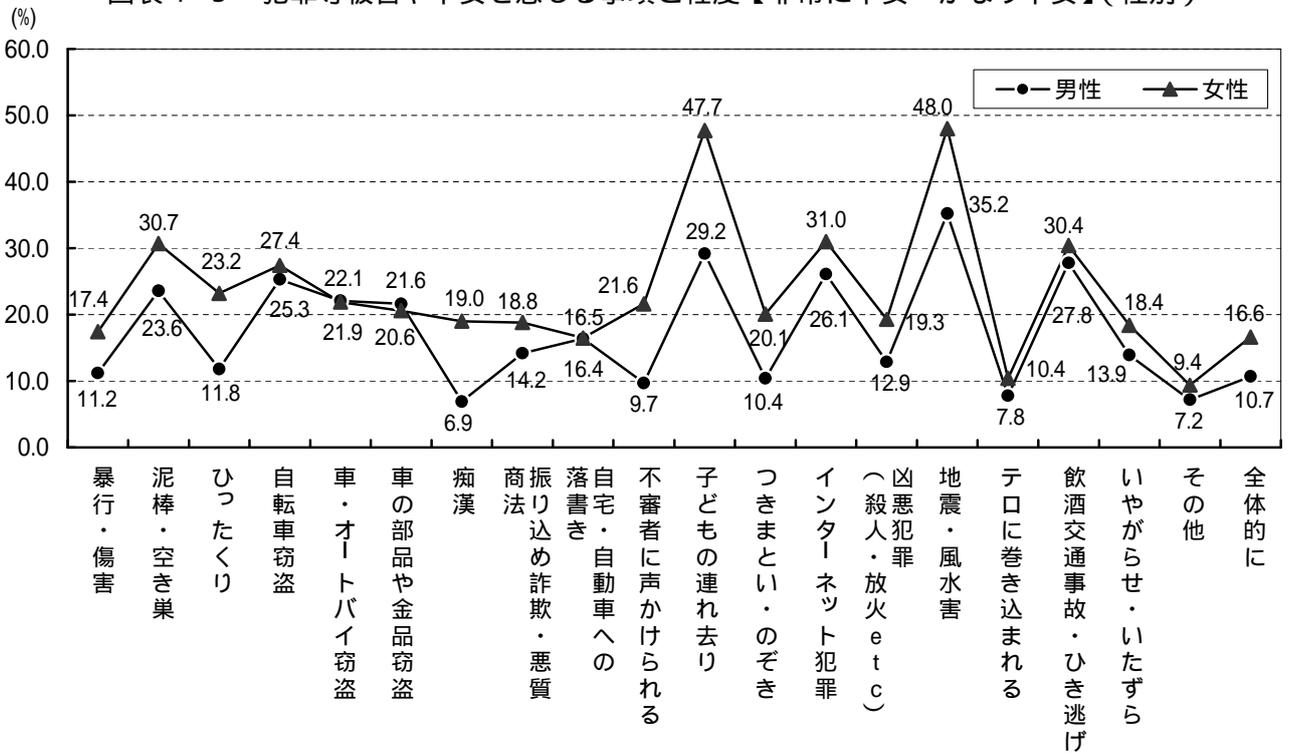


図表 4 - 4 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度【非常に不安 + かなり不安】(経年比較)



グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

図表 4 - 5 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度【非常に不安 + かなり不安】(性別)



グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

(3) 犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度

犯罪等被害に合う不安を感じる状況は、「人通りの少ない道」が34.9%で最も高い

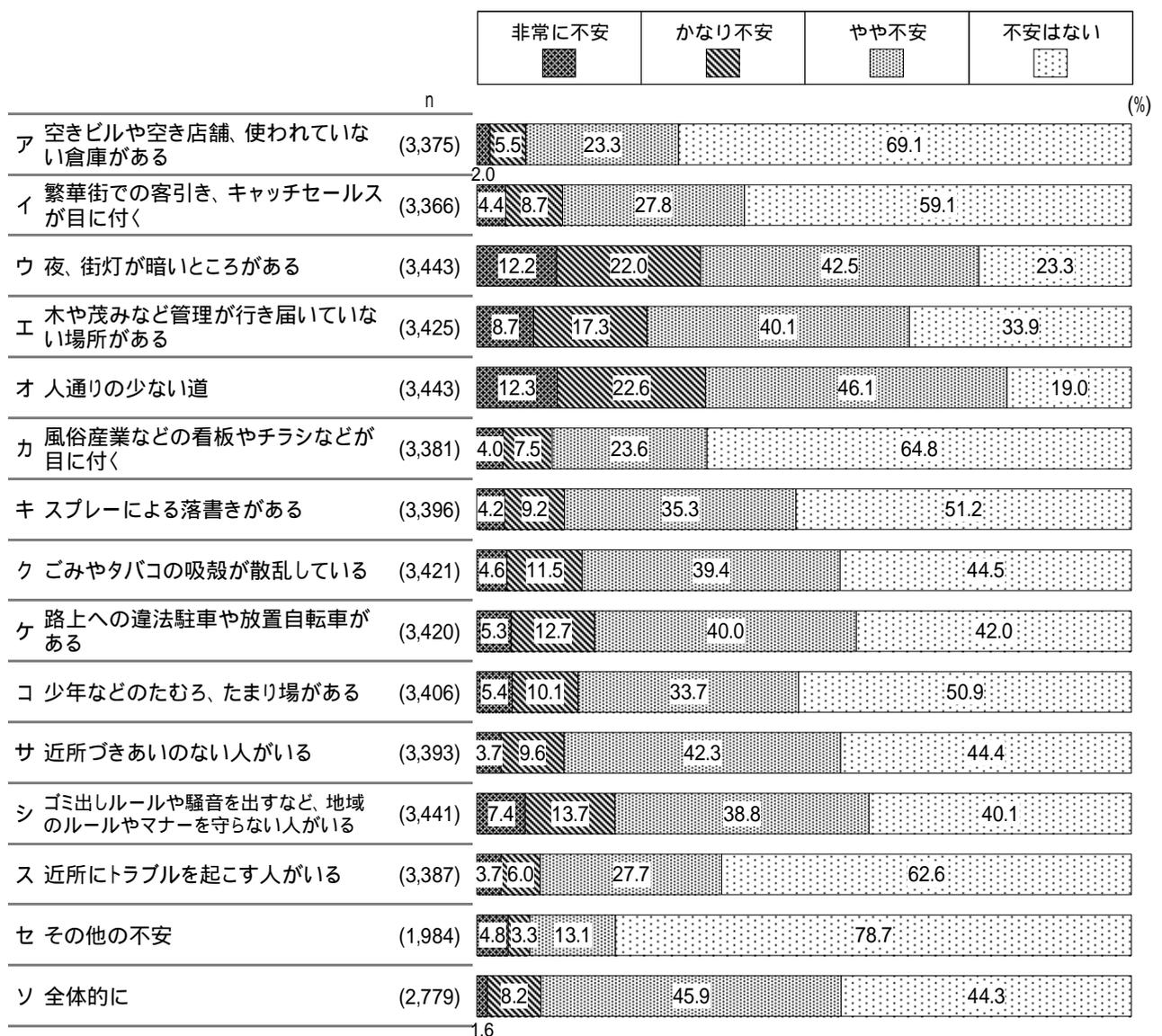
犯罪等被害に合う不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「人通りの少ない道」が34.9%で最も高く、次いで「夜、街灯が暗いところがある」で34.2%となっている。

過年度調査と比較すると、全ての項目で平成20年度調査以降減少傾向にあり、平成23年度調査より「少年などのたむろ、たまり場がある」では6.4ポイント、「路上への違法駐車や放置自転車がある」では6.1ポイント、それぞれ減少している。

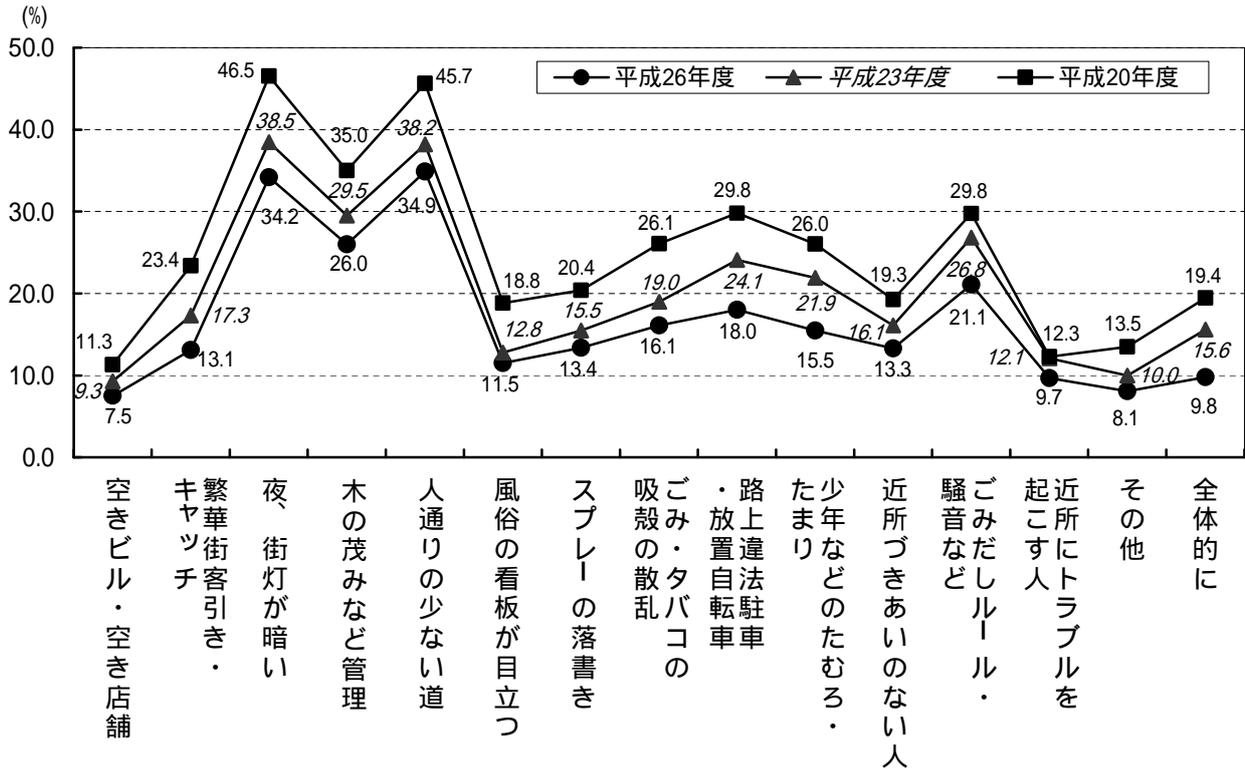
性別では、女性が男性より「人通りの少ない道」で15.0ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」で11.4ポイント、それぞれ高い

性別でみると、犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、女性が男性より「人通りの少ない道」で15.0ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」で11.4ポイント、それぞれ高くなっている。

図表4-6 犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度

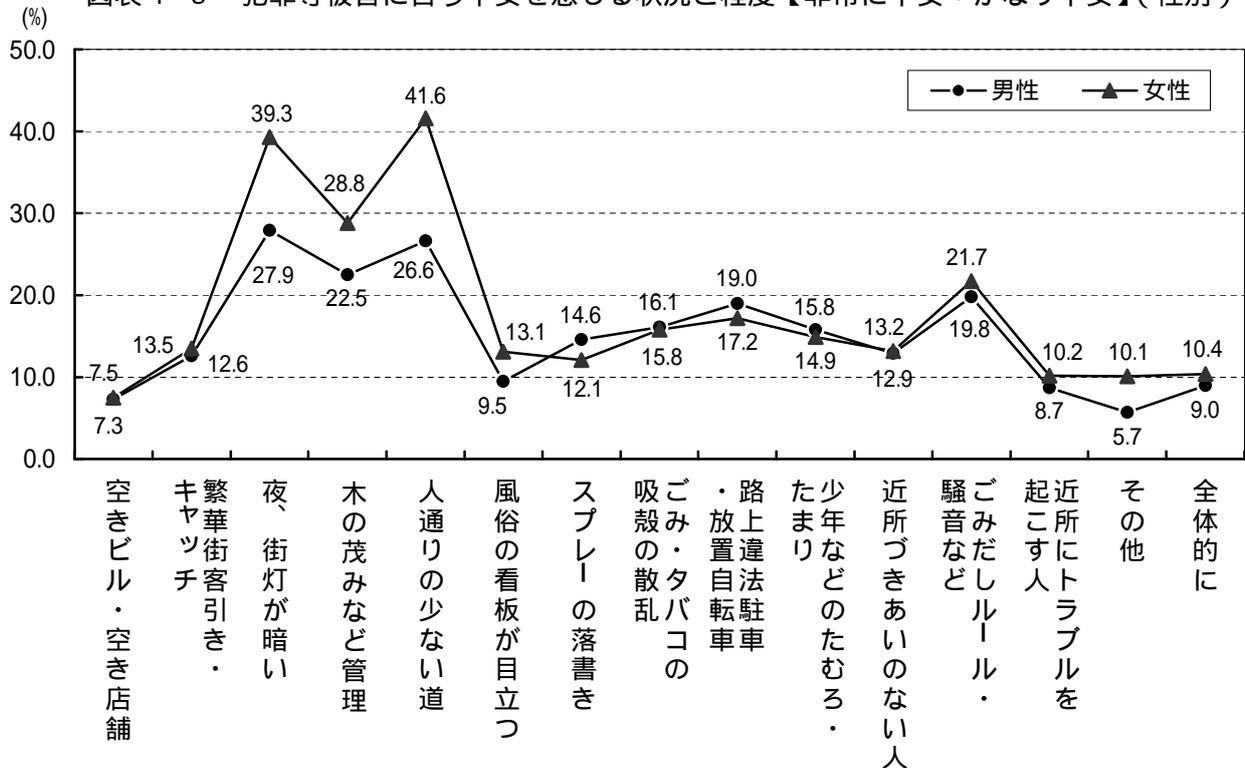


図表4-7 犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度【非常に不安+かなり不安】(経年比較)



グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

図表4-8 犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度【非常に不安+かなり不安】(性別)



グラフの数値は、「非常に不安」「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

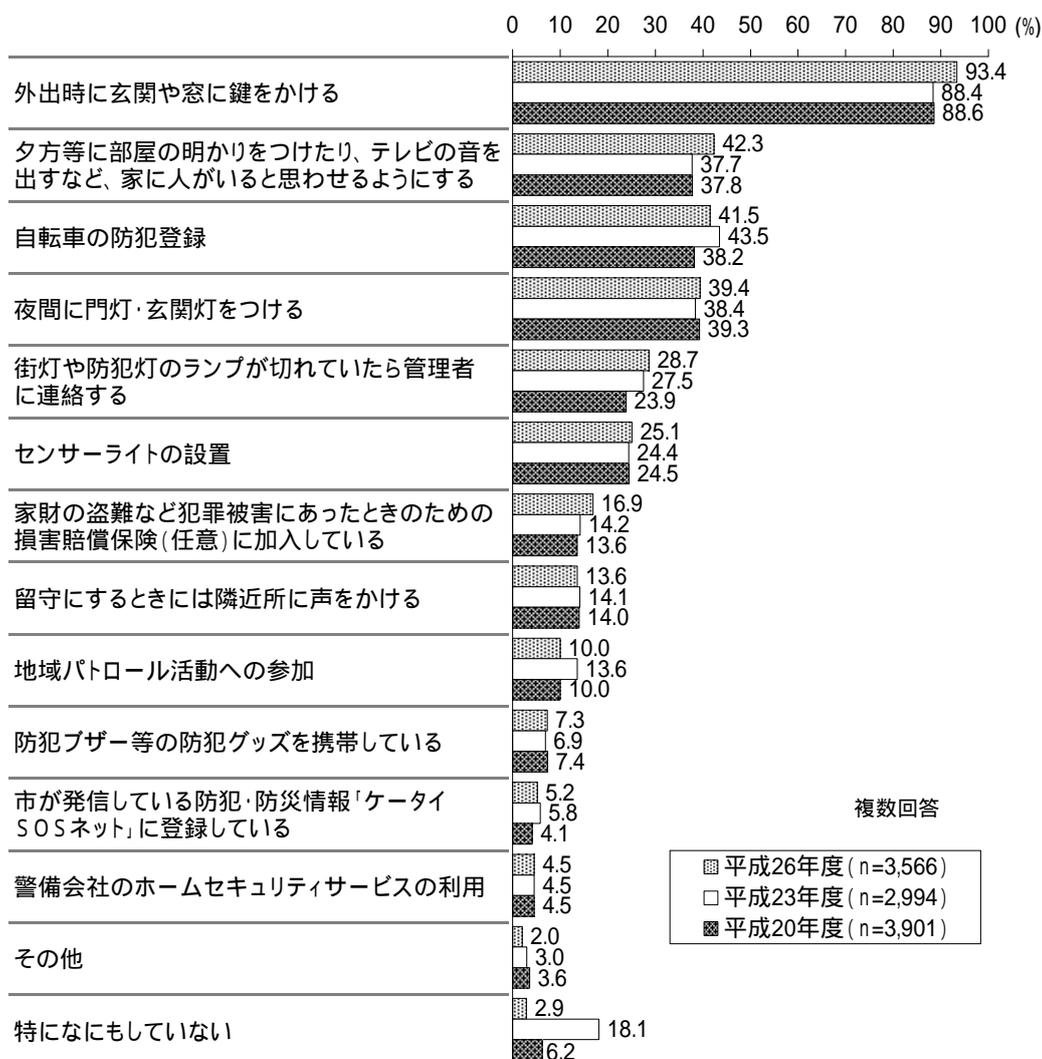
(4) 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況

犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が93.4%で最も高く、平成23年度調査より5.0ポイント増加

犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が93.4%で最も高く、次いで「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」で42.3%、「自転車の防犯登録」で41.5%となっている。

過年度調査と比較すると、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」は平成23年度調査より5.0ポイント増加し、引き続き1位となっている。「特になにもしていない」は平成23年度調査より15.2ポイント減少している。また、「街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する」と「家財の盗難など犯罪被害にあったときのための損害賠償保険(任意)に加入している」は平成20年度調査以降増加傾向にある。

図表4-9 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況(経年比較)



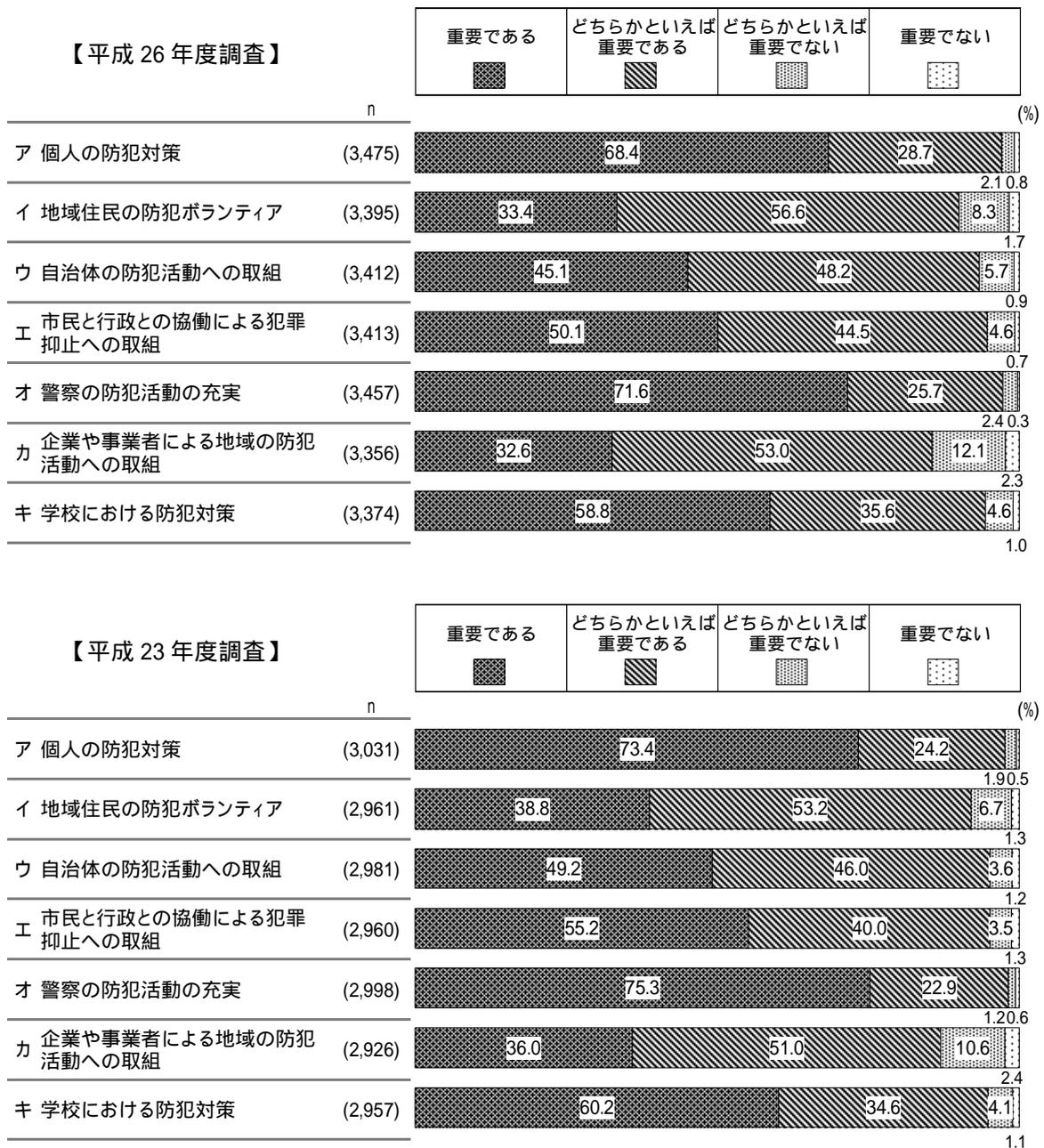
(5) 犯罪防止のために重要と考える対策

犯罪防止のために重要と考える対策で、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「警察の防犯活動の充実」が97.3%で最も高い

犯罪防止のために重要と考える対策で、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「警察の防犯活動の充実」が97.3%で最も高く、次いで「個人の防犯対策」で97.1%、「市民と行政との協働による犯罪抑止への取組」で94.6%となっている。

平成23年度調査と比較すると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、全ての項目で微減しているものの、ほぼ同様の傾向となっている。

図表4-10 犯罪防止のために重要と考える対策（経年比較）



## 5. 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

### (1) 自転車利用の概要

自転車を「利用している」が42.0%、利用目的は「買い物・飲食」が48.4%で最も高く、利用頻度は「ほぼ毎日」が29.7%で最も高い

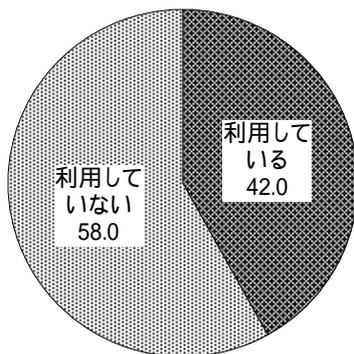
自転車の利用状況は、「利用している」が42.0%、「利用していない」が58.0%となっている。

自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が48.4%で最も高く、次いで「通勤・通学」が29.9%、「余暇活動」が14.5%となっている。

自転車の利用頻度は、「ほぼ毎日」が29.7%で最も高く、次いで「週に3～5回」が23.0%、「週に1～2回」が19.7%となっており、利用頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

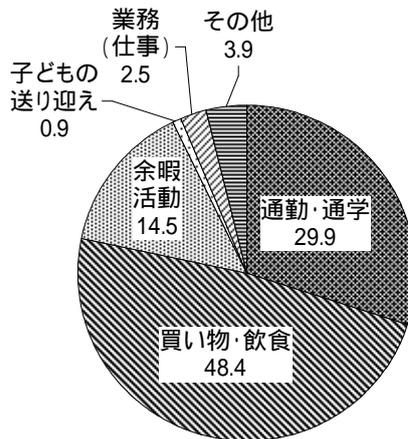
自転車の利用頻度を年齢階層別でみると、「ほぼ毎日」は15～39歳で37.1%と高く、「週に3～5回」は75歳以上の後期高齢者で33.3%と高くなっている。

図表5-1 自転車の利用状況



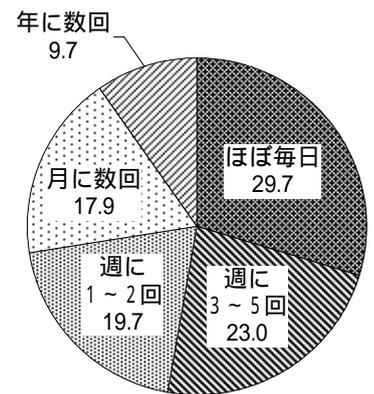
(n = 3,570)

図表5-2 自転車の利用目的



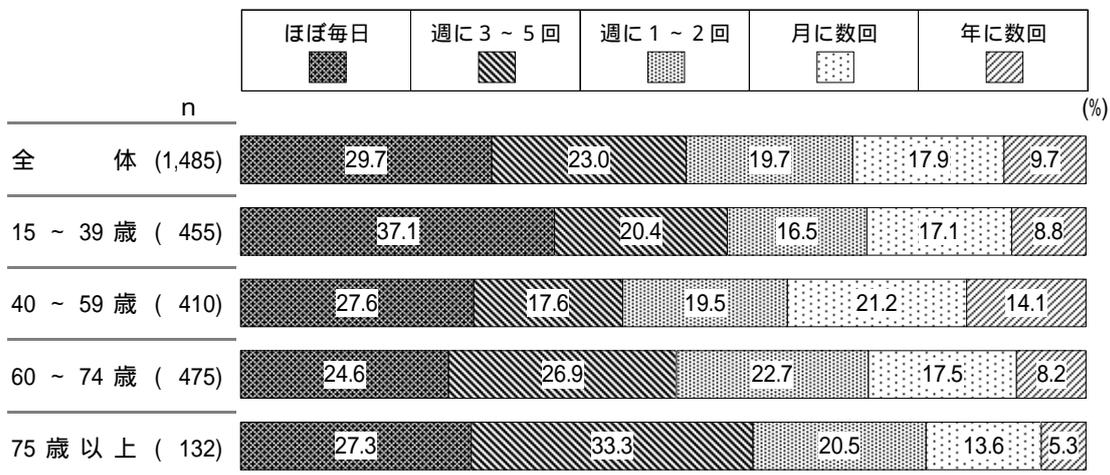
(n = 1,478)

図表5-3 自転車の利用頻度



(n = 1,485)

図表5-4 自転車の利用頻度(年齢階層別)



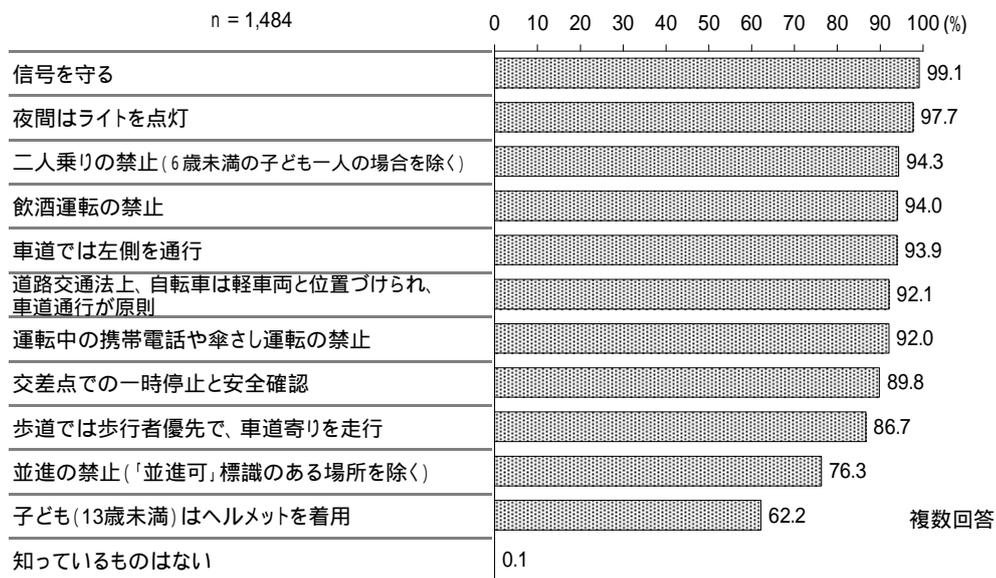
(2) 自転車の利用・交通ルールの認知状況

自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」が99.1%で最も高い  
 「夜間はライトを点灯」、「交差点での一時停止と安全確認」、「歩道では歩行者優先  
 で、車道寄りを走行」は年齢階層が上がるほど認知度が高い

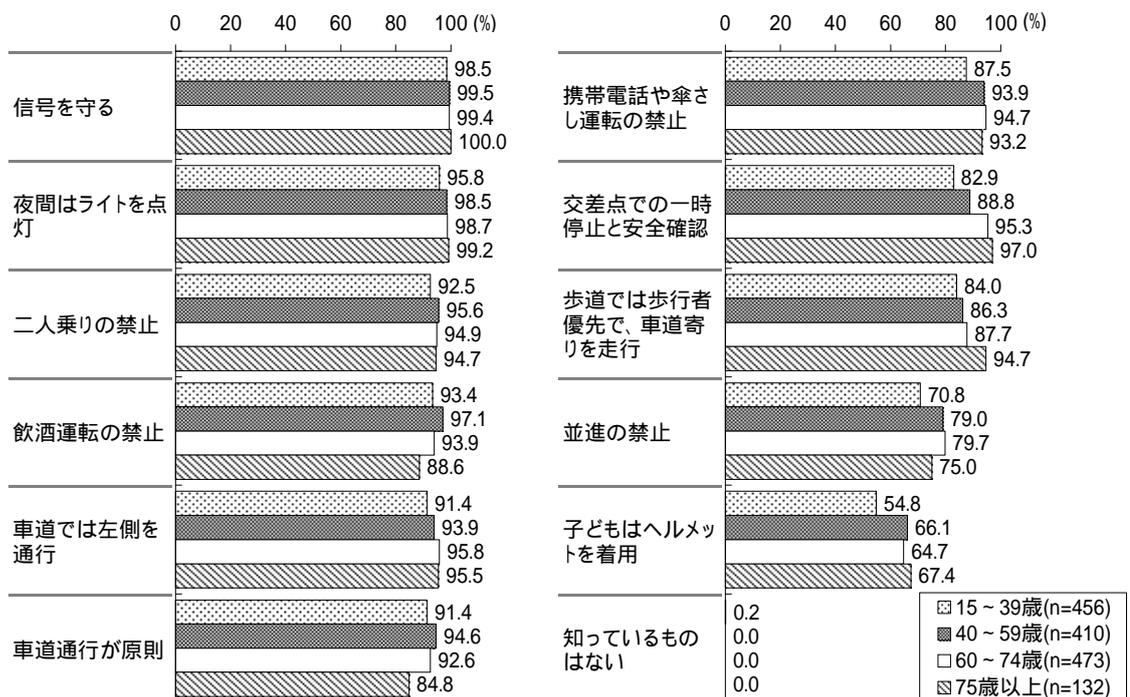
自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」が99.1%で最も高く、次いで「夜間はライトを点灯」が97.7%、「二人乗りの禁止(6歳未満の子ども一人の場合を除く)」が94.3%となっている。

自転車の利用・交通ルールの認知状況を年齢階層別で見ると、「夜間はライトを点灯」、「交差点での一時停止と安全確認」、「歩道では歩行者優先で、車道寄りを走行」は年齢階層が上がるほど認知度が高くなっている。

図表5-5 自転車の利用・交通ルールの認知状況



図表5-6 自転車の利用・交通ルールの認知状況(年齢階層別)



(3) 自転車利用時に感じる不安や危険

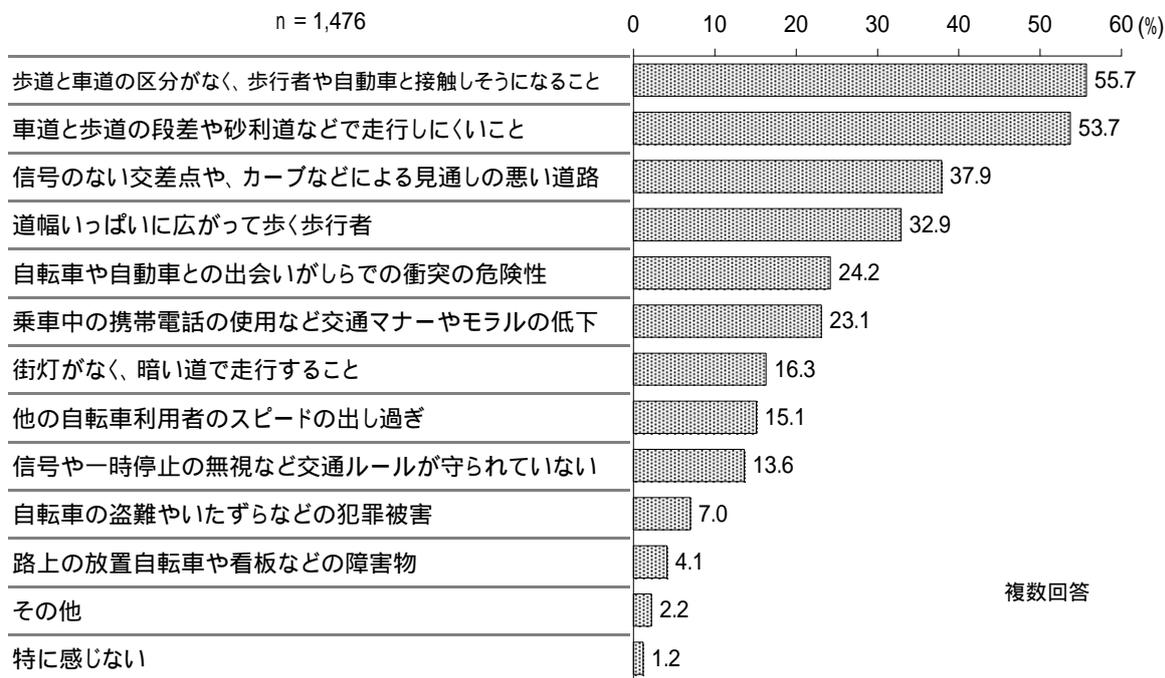
自転車利用時に感じる不安や危険は、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が55.7%で最も高い

自転車利用時に感じる不安や危険は、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が55.7%で最も高く、次いで「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が53.7%となっている。

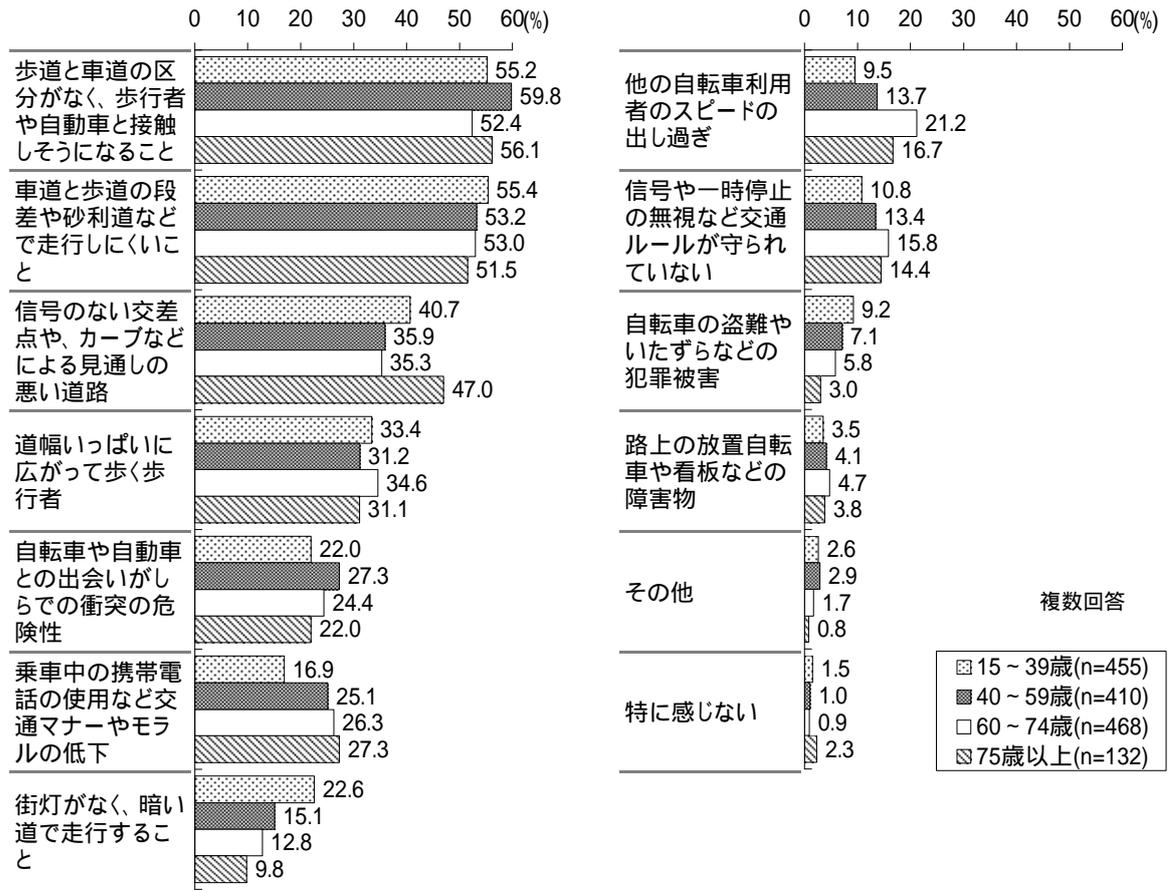
「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」は年齢階層が上がるほど割合が高く、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」、「街灯がなく、暗い道で走行すること」、「自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害」は年齢階層が下がるほど割合が高い

自転車利用時に感じる不安や危険を年齢階層別でみると、60～74歳では「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が53.0%で最も高くなっている。また、「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。一方、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」、「街灯がなく、暗い道で走行すること」、「自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害」は年齢階層が下がるほど割合が高くなっている。

図表5-7 自転車利用時に感じる不安や危険



図表 5 - 8 自転車利用時に感じる不安や危険（年齢階層別）



(4) 自転車利用時のけがや事故の経験

過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が15.1%  
 けがや事故がおきた時期は、「今年(2014年)」が26.8%で最も高く、けがや事故がおきた時間帯は、「昼間(通勤・通学時間以外)」が39.8%で最も高い

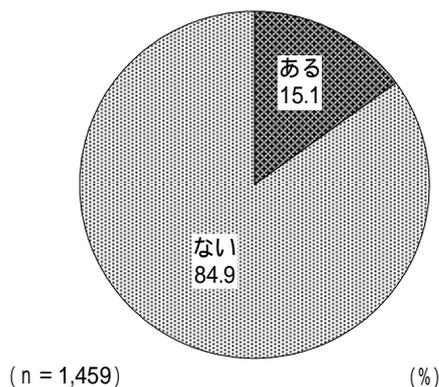
過去5年間で自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が15.1%、「ない」が84.9%となっている。

自転車利用時のけがや事故の件数は、「1件」が69.3%で最も高く、次いで「2件」が19.9%、「3件以上」が10.8%となっている。

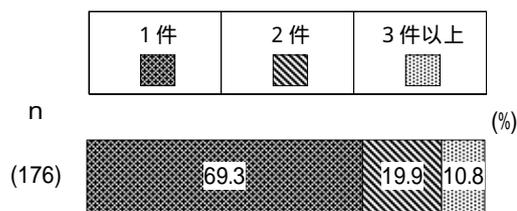
けがや事故がおきた時期は、「今年(2014年)」が26.8%で最も高く、次いで「平成25年(2013年)」が16.6%となっている。

けがや事故がおきた時間帯は、「昼間(通勤・通学時間以外)」が39.8%で最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」と「夕方の帰宅時間帯」が21.4%となっている。

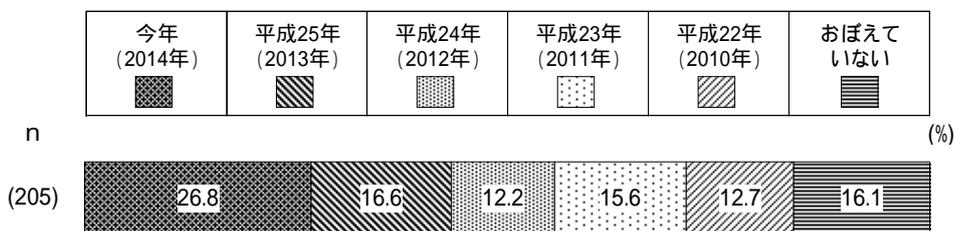
図表5-9 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験



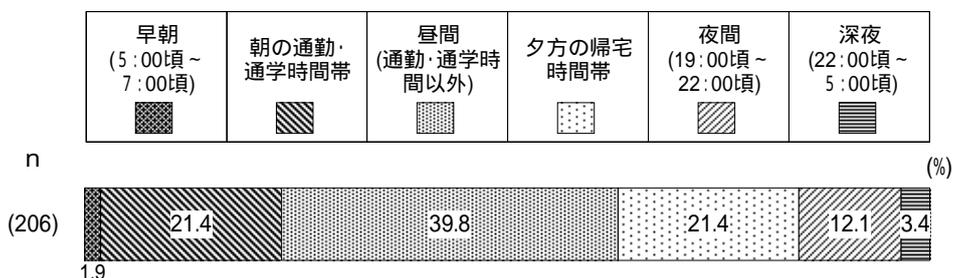
図表5-10 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の件数



図表5-11 けがや事故がおきた時期



図表5-12 けがや事故がおきた時間帯



(5) 自転車利用時のけがや事故の状況、原因、場所

過去5年間の自転車利用時のけがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が55.6%で最も高い

けがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が34.1%で最も高く、けがや事故がおきた場所は、「歩道」が43.8%で最も高い

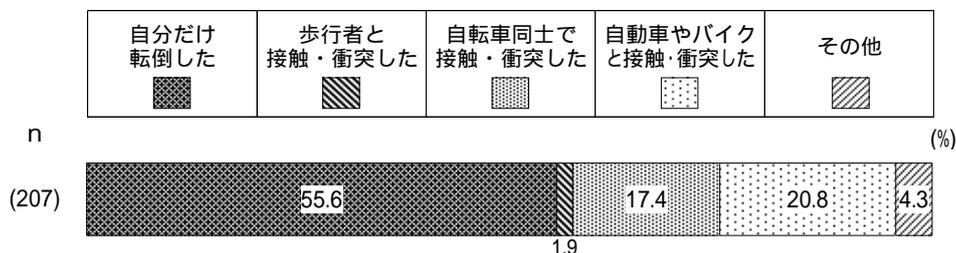
過去5年間の自転車利用時のけがや事故の状況は、「自分だけ転倒した」が55.6%で最も高く、次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が20.8%、「自転車同士で接触・衝突した」が17.4%となっている。

けがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が34.1%で最も高く、次いで「道路が狭かった」が20.7%、「出会いがしらの衝突」が16.3%となっている。

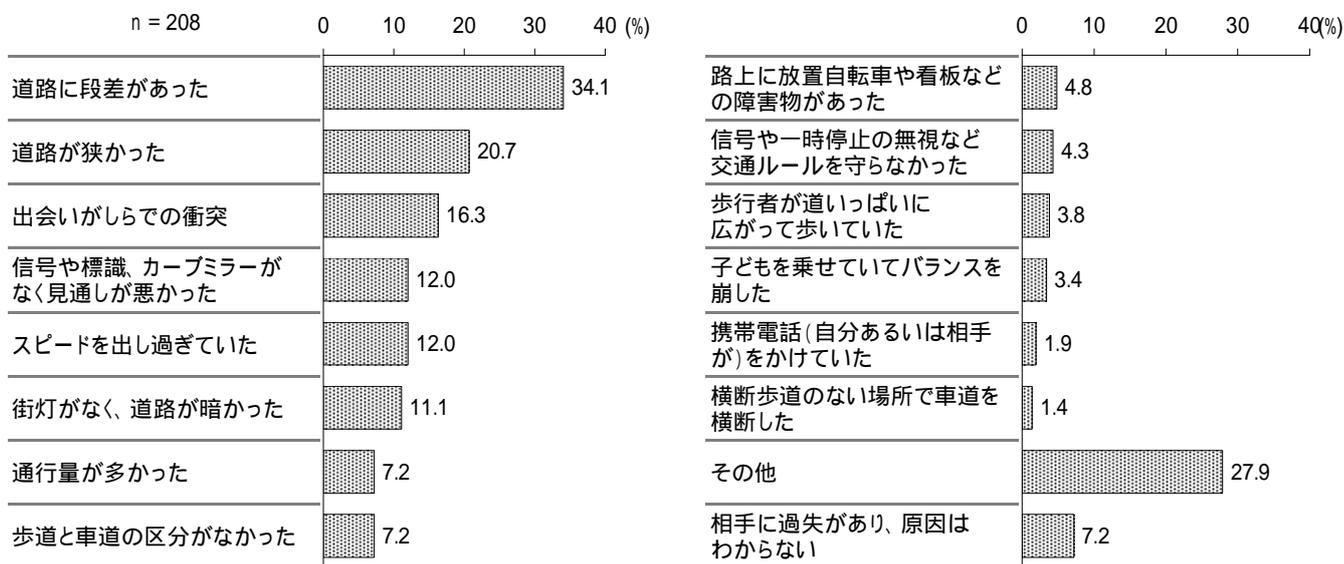
けがや事故がおきた原因をけがをした場所別でみると、“歩道”では、「歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた」、「横断歩道のない場所で車道を横断した」、「路上に放置自転車や看板などの障害物があった」で高くなっている。一方、“車道”では、「歩道と車道の区がなかった」、「携帯電話(自分あるいは相手が)をかけていた」、「信号や一時停止の無視など交通ルールを守らなかった」で高くなっている。

けがや事故がおきた場所は、「歩道」が43.8%で最も高く、次いで「車道」が31.7%、「交差点」が13.0%となっている。

図表5-13 けがや事故の状況



図表5-14 けがや事故がおきた原因



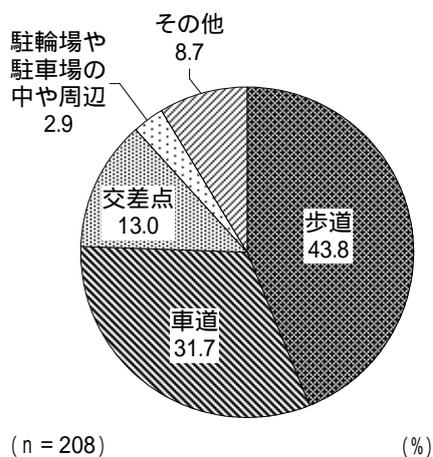
複数回答

図表 5 -15 けがや事故がおきた原因（けがをした場所別）-上位3項目

(%)

項目	順位	n	1 位	2 位	3 位
道路が狭かった		42	歩道 59.5	車道 21.4	交差点 9.5
通行量が多かった		15	歩道 53.3	車道 20.0	交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 13.3
道路に段差があった		70	歩道 62.9	車道 31.4	交差点 4.3
歩道と車道の区がなかった		14	車道 64.3	歩道 35.7	交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 -
信号や標識、カーブミラーがなく 見通しが悪かった		24	歩道 45.8	車道 25.0	交差点 16.7
街灯がなく、道路が暗かった		23	歩道 60.9	車道 30.4	交差点 8.7
歩行者が道いっぱいに広がって 歩いていた		8	歩道 75.0	車道 25.0	交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 -
携帯電話(自分あるいは相手が)を かけていた		4	歩道 / 車道	50.0	交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 -
子どもを乗せていてバランスを崩した		7	歩道 57.1	車道 42.9	交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 -
出会いがしらの衝突		33	歩道 45.5	車道 21.2	交差点 33.3
スピードを出し過ぎていた		25	歩道 44.0	車道 40.0	交差点 4.0
信号や一時停止の無視など交通ルール を守らなかった		9	車道 44.4	歩道 33.3	交差点 22.2
横断歩道のない場所で車道を横断した		3	歩道 66.7	車道 33.3	交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 -
路上に放置自転車や看板などの障害物 があった		9	歩道 66.7	車道 / 交差点 / 駐輪場や駐車場の 中や周辺 11.1	
その他		58	歩道 37.9	車道 32.8	交差点 12.1
相手に過失があり、原因はわからない		15	車道 40.0	交差点 20.0	歩道 6.7

図表 5 -16 けがや事故がおきた場所



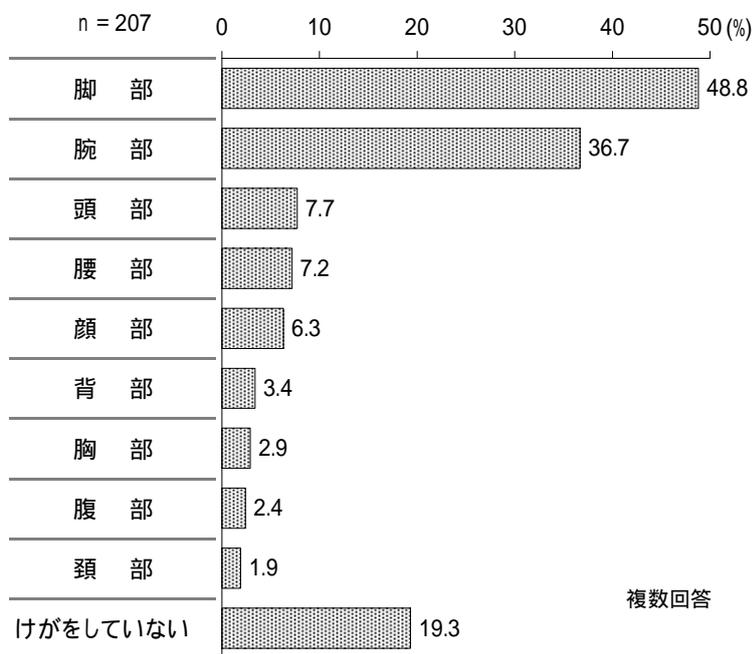
( 6 ) 自転車利用時にけがをした体の箇所と医療機関での治療状況

過去5年間で自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が48.8%で最も高い  
 医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が30.3%、「入院して手当を受けた」が4.0%となっており、医療機関を利用した人は34.3%

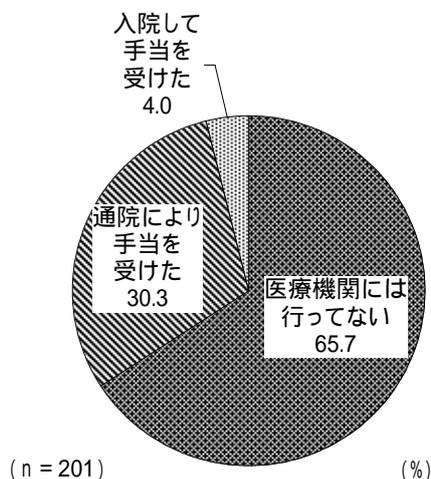
過去5年間で自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が48.8%で最も高く、次いで「腕部」が36.7%、「頭部」が7.7%となっている。

医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が30.3%、「入院して手当を受けた」が4.0%となっており、医療機関を利用した人は34.3%となっている。一方、「医療機関には行ってない」は65.7%となっている。

図表 5 - 17 けがをした体の箇所



図表 5 - 18 医療機関での治療状況

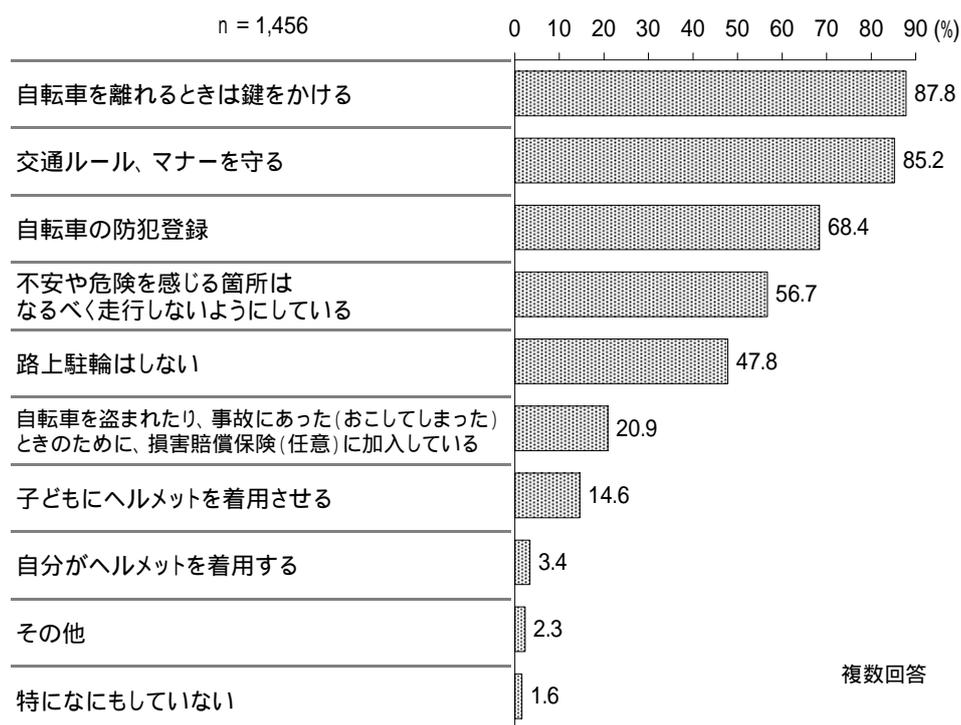


(7) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること

自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が87.8%で最も高い

自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が87.8%で最も高く、次いで「交通ルール、マナーを守る」が85.2%、「自転車の防犯登録」が68.4%となっている。

図表5-19 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること



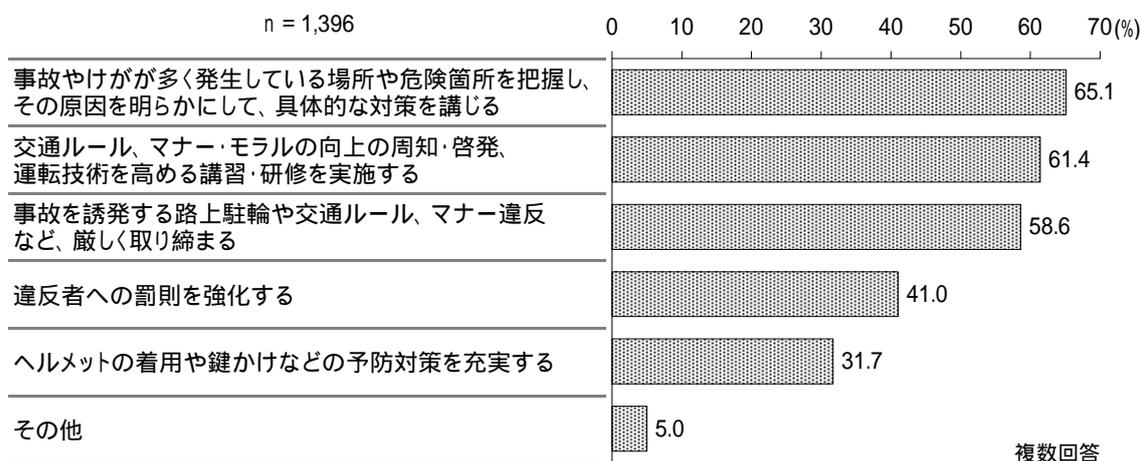
(8) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと

自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が65.1%で最も高い

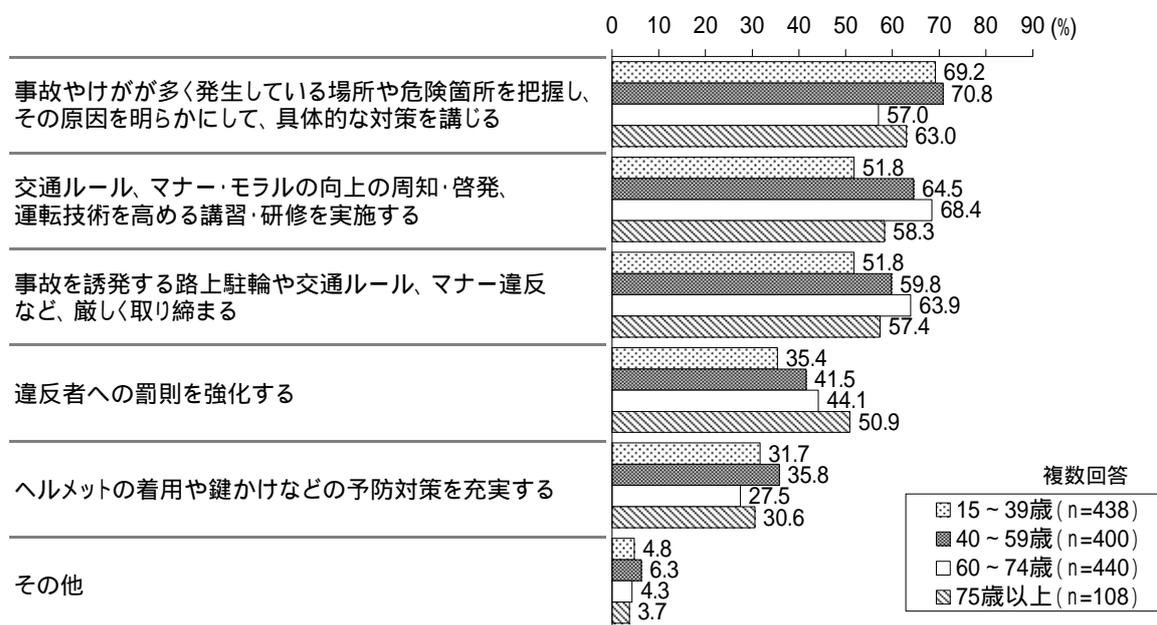
自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が65.1%で最も高く、次いで「交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する」が61.4%となっている。

自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことを年齢階層別でみると、60～74歳では「交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する」が68.4%で最も高くなっている。また、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」は15～39歳と40～59歳で高く、「違反者への罰則を強化する」は年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

図表 5 -20 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと



図表 5 -21 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと（年齢階層別）



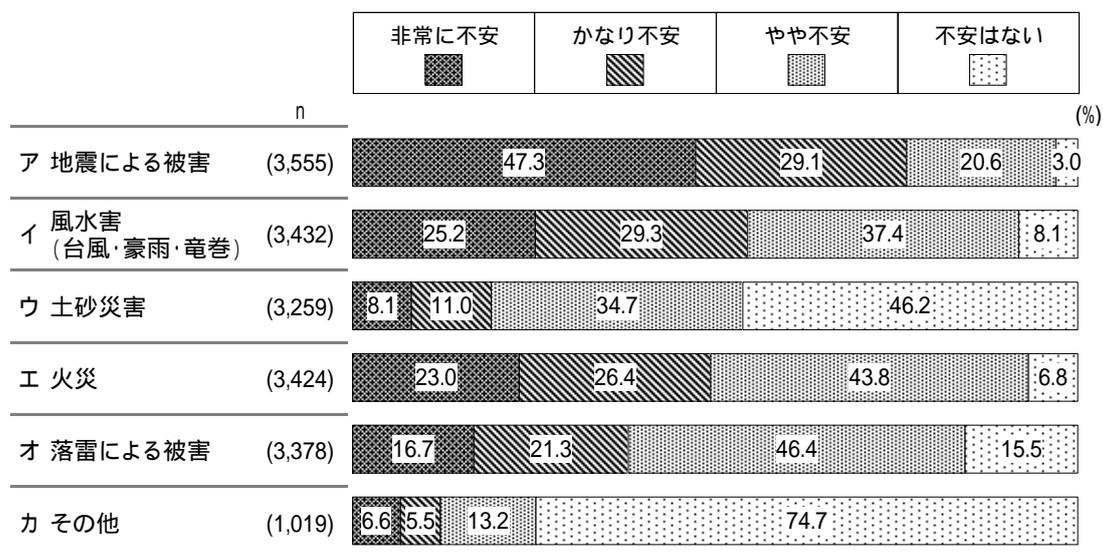
## 6. 災害についての意識

### (1) 不安を感じる災害

不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震による被害」が76.4%で最も高い

不安を感じる災害について、「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震による被害」で76.4%と最も高く、次いで「風水害(台風・豪雨・竜巻)」で54.5%、「火災」で49.4%となっている。

図表6-1 不安を感じる災害

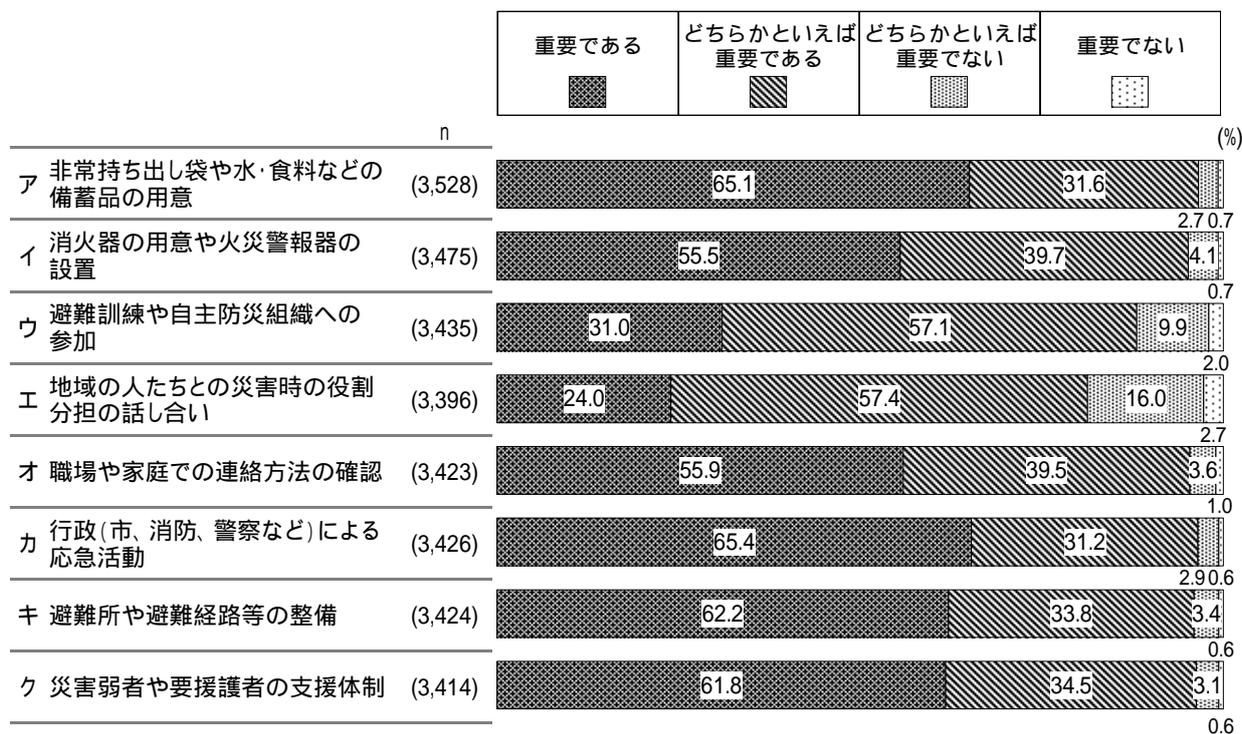


(2) 災害対策の重要度

災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が96.7%で最も高い

災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」と答えた人の割合は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が96.7%で最も高く、次いで「行政(市、消防、警察など)による応急活動」で96.6%、「災害弱者や要援護者の支援体制」で96.3%となっており、全ての項目で80%を超えている。

図表6-2 災害対策の重要度

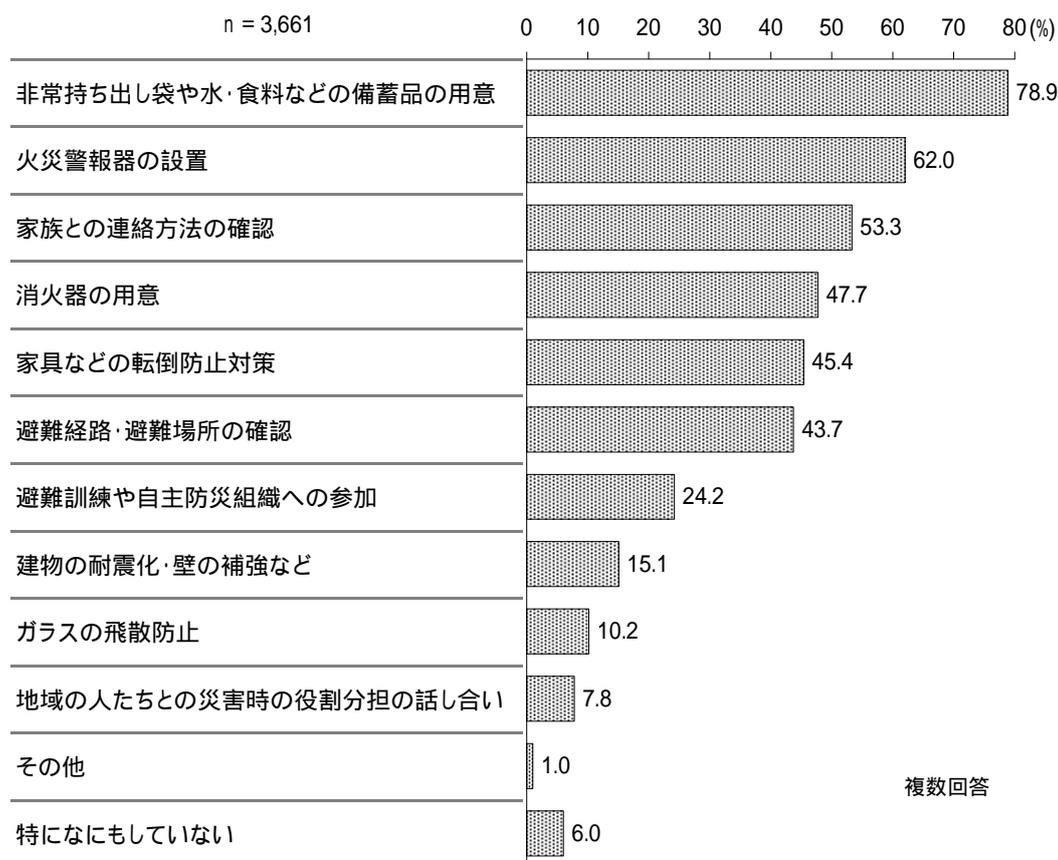


( 3 ) 災害に対する自己対策

災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が78.9%で最も高い

災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が78.9%で最も高く、次いで「火災警報器の設置」が62.0%、「家族との連絡方法の確認」が53.3%となっている。

図表 6 - 3 災害に対する自己対策

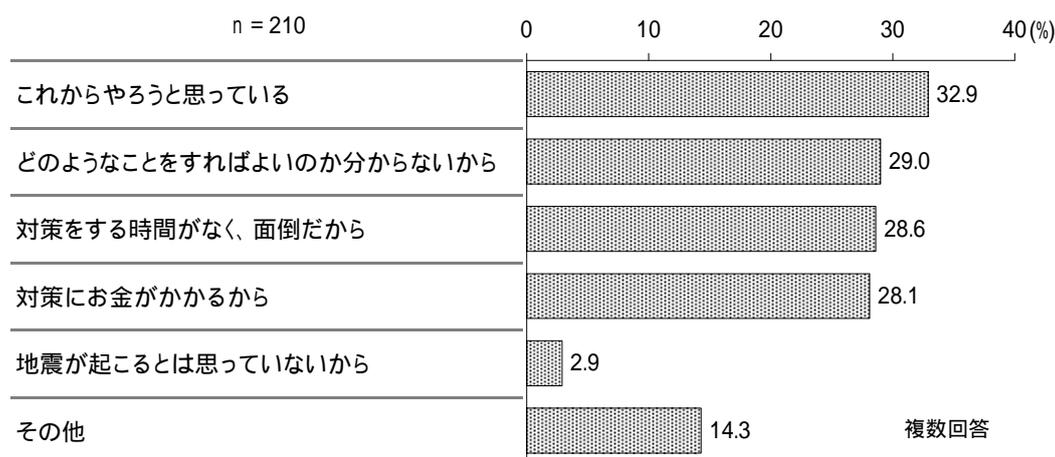


(4) 災害への自己対策をしていない理由

災害への自己対策をしていない理由は、「これからやろうと思っている」が32.9%で最も高い

災害への自己対策をしていない理由は、「これからやろうと思っている」が32.9%で最も高く、次いで「どのようなことをすればよいのか分からないから」が29.0%、「対策をする時間がなく、面倒だから」が28.6%となっている。

図表6-4 災害への自己対策をしていない理由



(5) 非常用備蓄品の状況

非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が32.8%で最も高い  
非常用備蓄品を備蓄している人は、77.9%

非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が32.8%で最も高くなっており、非常用備蓄品を備蓄している人は、77.9%となっている。

図表6-5 非常用備蓄品の状況



## 7. 「セーフコミュニティ」の認知状況

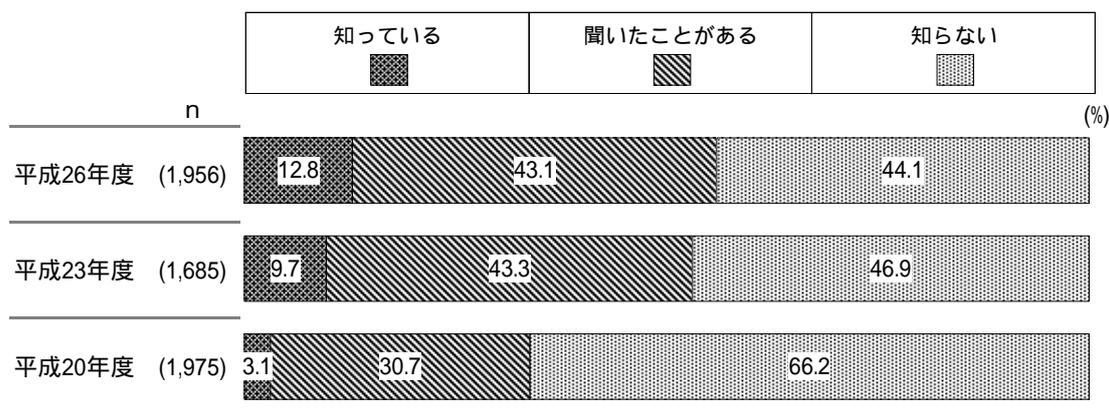
### (1) 厚木市の取組の認知状況

「セーフコミュニティ」の認知度は55.9%、平成23年度調査より2.9ポイント増加

「セーフコミュニティ」の認知状況は、「知っている」が12.8%、「聞いたことがある」が43.1%となっており、認知度は55.9%となっている。

過年度調査と比較すると、認知度は平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成23年度調査より2.9ポイント増加している。

図表7-1 「セーフコミュニティ」の認知状況（経年比較）



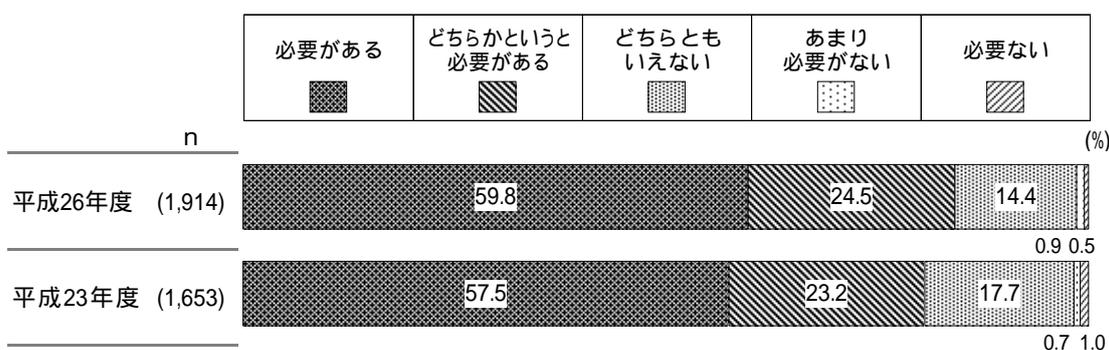
### (2) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識

今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、必要がある人の割合は84.3%、平成23年度調査より3.6ポイント増加

今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」が59.8%、「どちらかという必要がある」が24.5%となっており、必要がある人の割合は84.3%となっている。

平成23年度調査と比較すると、必要がある人の割合は3.6ポイント増加している。

図表7-2 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識（経年比較）



## 8. 市民生活の安心・安全に関する意識

### (1) 居住地域の安心・安全に関する意識

居住地域が安心・安全かどうかについて、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は64.3%、平成23年度調査より5.0ポイント増加

市全体では、居住地域が安心・安全かどうかについて、「そう思う」が20.4%、「どちらかといえばそう思う」が43.9%となっており、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は64.3%となっている。

過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、平成20年度調査以降増加傾向にあり、平成23年度調査より5.0ポイント増加している。

居住地区別では、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、森の里地区で88.4%と最も高い

居住地区別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、森の里地区で88.4%と最も高く、次いで、睦合西地区で73.0%、玉川地区で72.0%となっている。

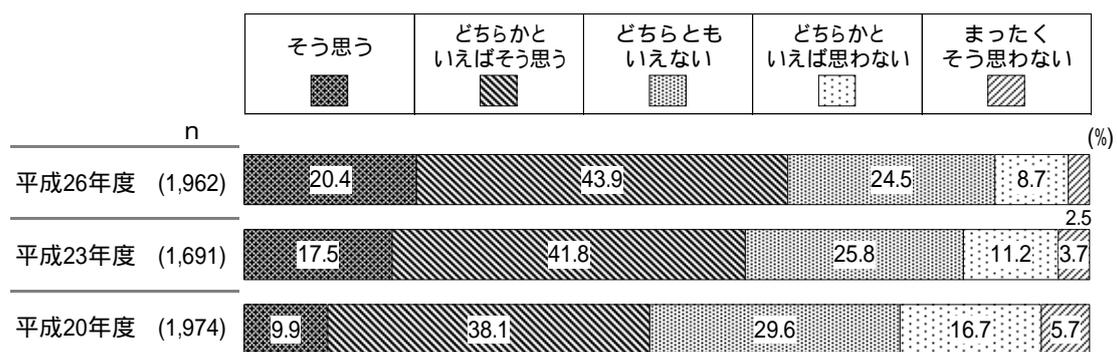
居住地区別を過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、平成20年度調査との比較では全ての地区、平成23年度調査との比較では11地区でそれぞれ増加しており、平成23年度調査より相川地区では17.6ポイント、睦合北地区では17.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた、居住地域が安心・安全だと思わない人の割合は、平成23年度調査より緑ヶ丘地区で7.4ポイント増加している。

現在の近所付き合いの状況別では、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、現在の近所付き合いが親密になるほど高い

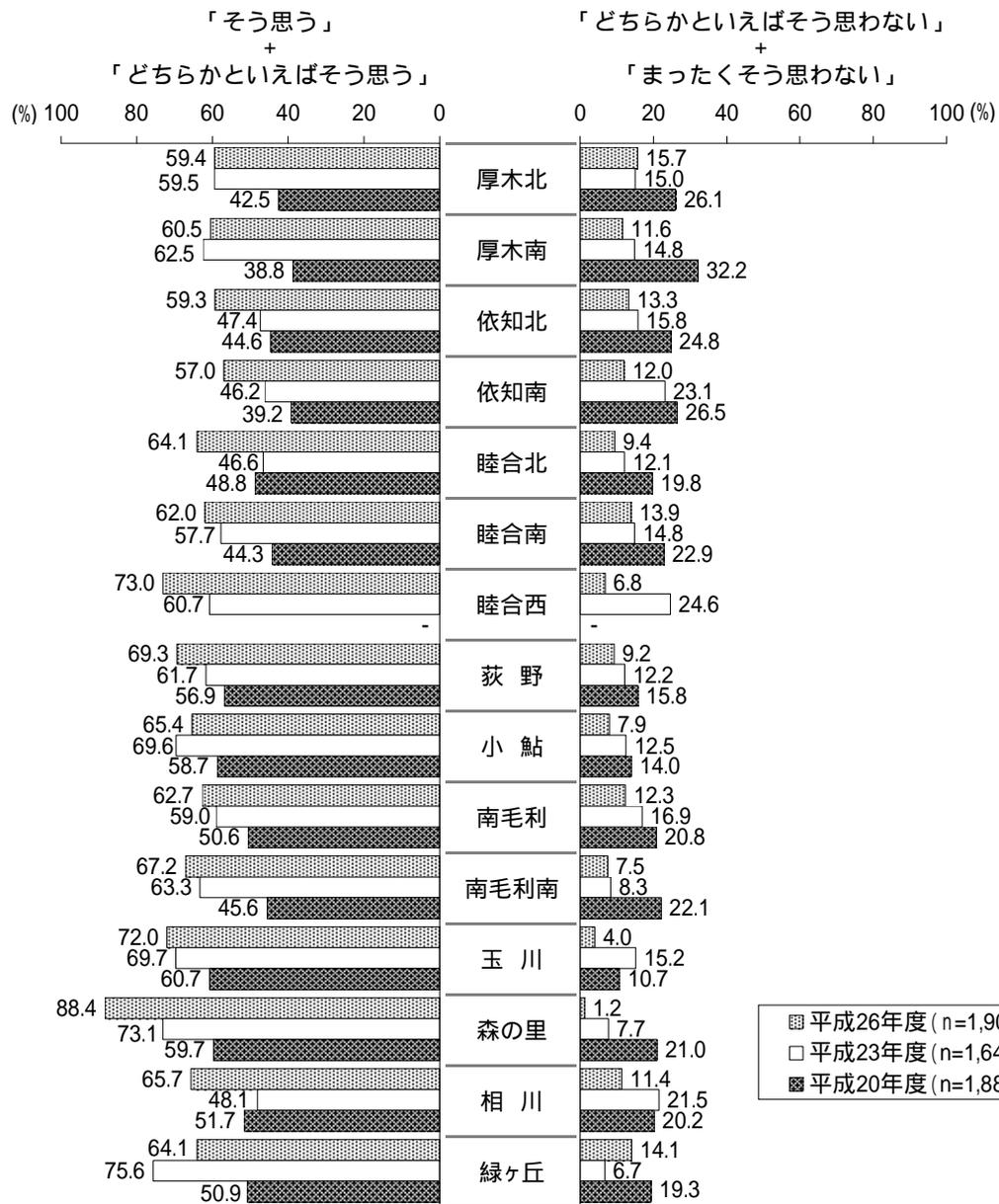
現在の近所付き合いの状況別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、居住地域が安心・安全だと思う人の割合は、現在の近所付き合いが親密になるほど高くなっており、“互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度”では76.0%と高くなっている。

現在の近所付き合いの状況別を平成23年度調査と比較すると、同様の傾向となっている。

図表8-1 居住地域の安心・安全に関する意識（経年比較）

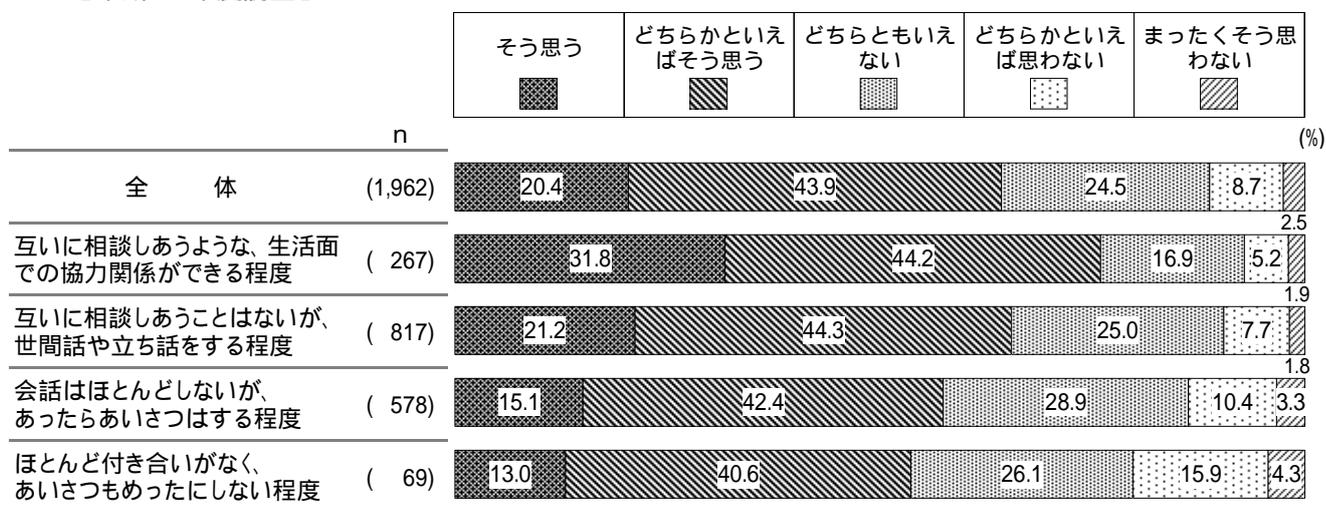


図表 8 - 2 居住地域の安心・安全に関する意識（居住地区別、経年比較）

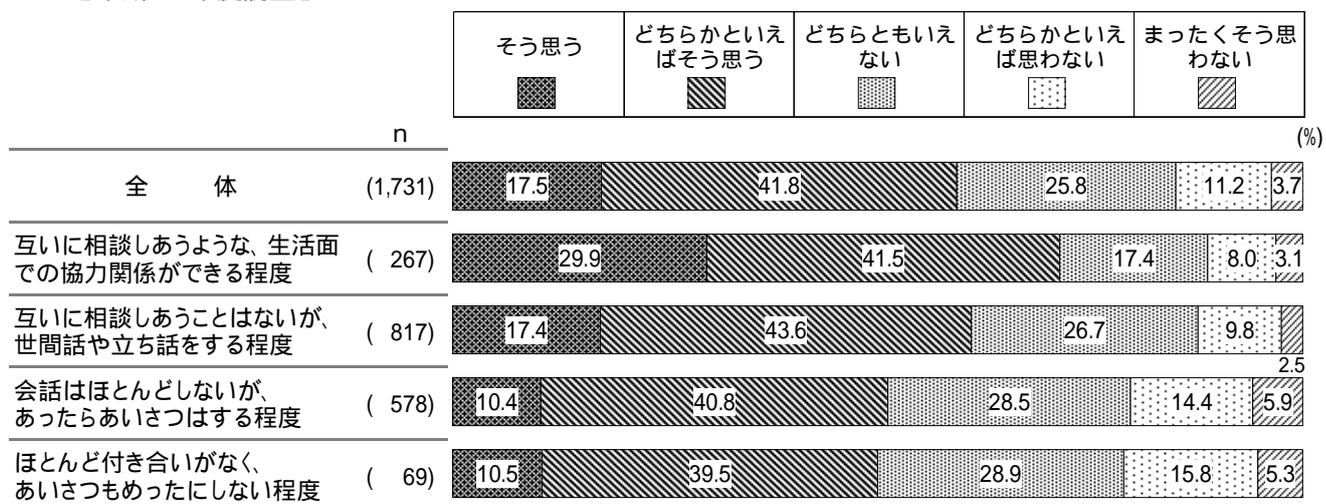


図表 8 - 3 居住地域の安心・安全に関する意識（現在の近所付き合いの状況別）

【平成 26 年度調査】



【平成 23 年度調査】



(2) 近所付き合いと安心・安全に関する意識

現在の近所付き合いの状況は、ある程度の近所付き合いのある人の割合が62.6%

今後の近所付き合いの意向では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が27.8%

現在の近所付き合いの状況は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が15.5%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が47.1%となっており、この2つを合わせた、ある程度の近所付き合いのある人の割合が62.6%となっている。

今後の近所付き合いの意向では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が27.8%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が48.8%となっており、今後、より親密な近所付き合いを希望する人の割合が高くなっている。

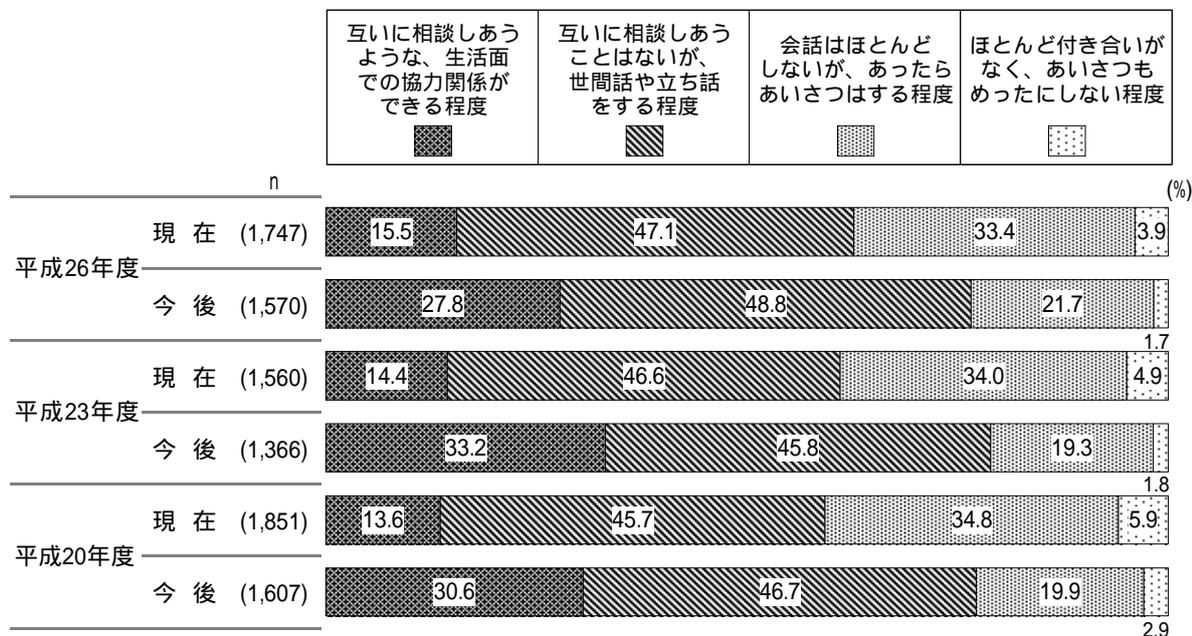
過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降ほぼ同様の傾向となっている。

居住地域の安心・安全に関する意識別でみると、今後、より親密な近所付き合いを希望する人では、居住地域が安心・安全だと思う割合が高い

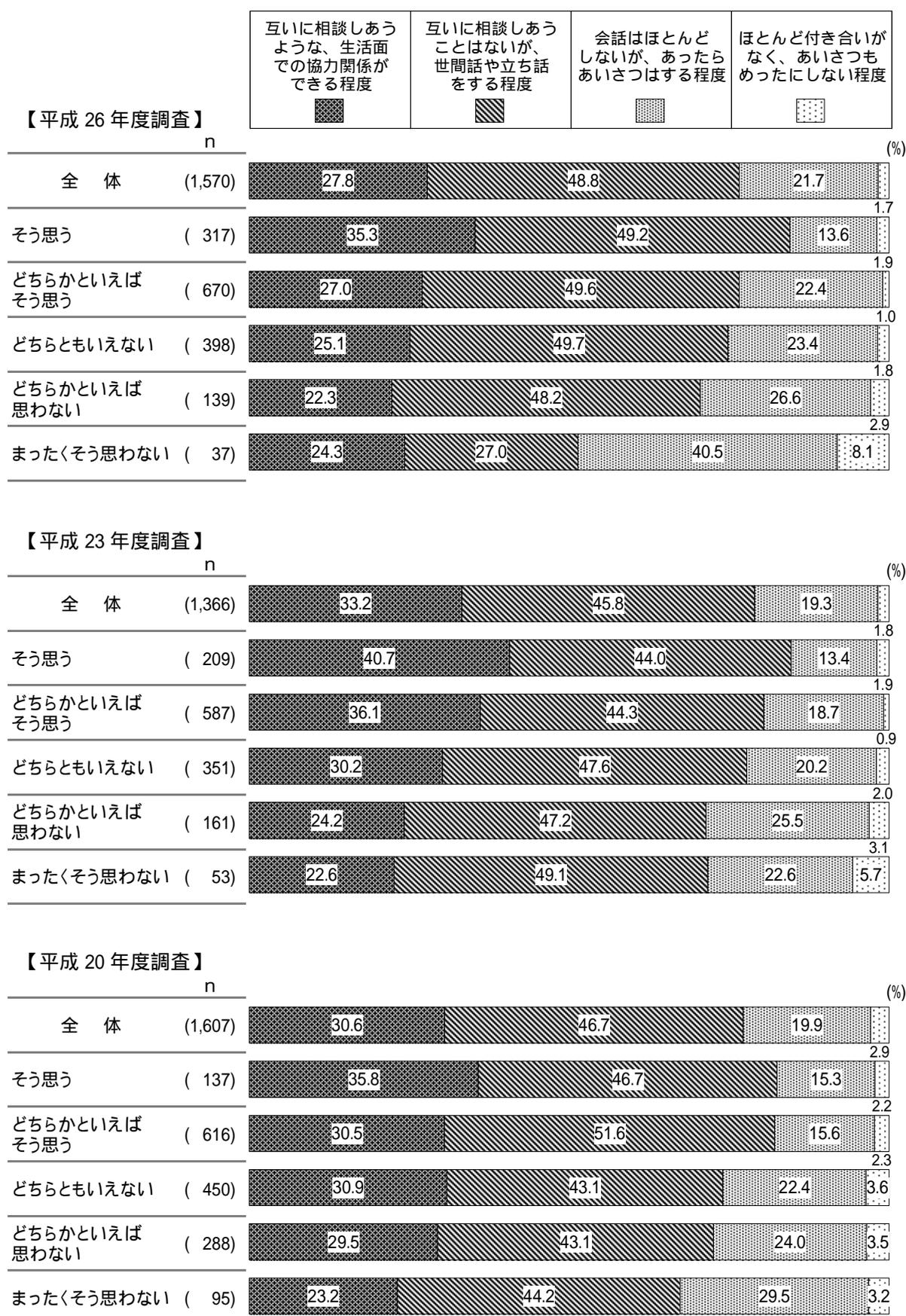
今後の近所付き合いの意向を居住地域の安心・安全に関する意識別でみると、今後、より親密な近所付き合いを希望する人では、居住地域が安心・安全だと思う割合が高くなっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降ほぼ同様の傾向となっている。

図表8-4 現在の近所付き合いの状況と今後の意向（経年比較）



図表 8 - 5 今後の近所付き合いの意向（居住地域の安心・安全に関する意識別）





# 調査票と集計結果



## 世帯票

世帯主あるいは世帯を代表される方、どなたかお一人の方が、世帯を代表してご記入ください。

### あなたの世帯についておたずねします

問1．お住まいのある地区は、次のどこですか。( 1つに ) n=1,915

- 1．厚木北(11.0)      2．厚木南(9.4)      3．依知北(6.0)      4．依知南(5.2)      5．睦合北(3.4)  
6．睦合南(8.4)      7．睦合西(3.9)      8．荻野(12.0)      9．小鮎(6.7)      10．南毛利(15.8)  
11．南毛利南(3.5)      12．玉川(1.3)      13．森の里(4.5)      14．相川(5.5)      15．緑ヶ丘(3.3)

問2．あなたは現在のお住まいに住んで何年になりますか。( 1つに ) n=1,953

- 1．1年未満(4.5)      2．1年以上5年未満(15.3)      3．5年以上10年未満(12.7)  
4．10年以上15年未満(12.3)      5．15年以上20年未満(8.3)      6．20年以上(47.0)

問3．現在、一緒に暮らしているご家族はあなたを含めて何人ですか。

自分も含めて  人

ご家族のうち、過去1年の間にけがをした方は何人いますか。

自分も含めて  人

ご家族のうち次の1～6に該当する方はいますか。( 当てはまるものすべてに ) n=620

- 1．12歳未満の女の子(30.3)      2．12歳未満の男の子(31.9)  
3．12歳以上18歳未満の女の子(19.0)      4．12歳以上18歳未満の男の子(17.6)  
5．介助、見守りの必要な18歳以上65歳未満の方(6.0)  
6．介助、見守りの必要な65歳以上の方(24.5)

問4．あなたのお住まいの種類は次のうちどれですか。( 1つに ) n=1,961

なお、「3．集合住宅」に該当する方は何階にお住まいかご記入ください。

- 1．戸建て(平屋)(7.1)      2．戸建て(2階以上)(54.5)      3．集合住宅(  階 )(37.4)  
4．その他(  )(1.1)

### セーフコミュニティについておたずねします

問5．平成22年11月に厚木市はWHO(世界保健機関)セーフコミュニティ協働センターのセーフコミュニティ認証を取得しました。あなたは、セーフコミュニティの取組をご存知ですか。( 1つに ) n=1,956

- 1．セーフコミュニティの考え方や活動を知っている(12.8)  
2．セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある(43.1)  
3．知らない(44.1)

問6．市民や行政などが協働して、安心・安全なまちづくりを進めるセーフコミュニティの取組を、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。( 1つに ) n=1,914

- 1．必要がある(59.8)      2．どちらかという必要がある(24.5)      3．どちらともいえない(14.4)  
4．あまり必要がない(0.9)      5．必要ない(0.5)

### 厚木市での暮らしについておたずねします

問7．あなたのお住まいの地域は、総じて安心して安全だと思いますか。( 1つに ) n=1,962

- 1．そう思う(20.4)      2．どちらかといえばそう思う(43.9)      3．どちらともいえない(24.5)  
4．どちらかといえば思わない(8.7)      5．まったく思わない(2.5)

問 8 . あなたは、ご近所の方とどの程度お付き合いがありますか。また、今後はどの程度お付き合いをしていきたいですか。(現在、今後、それぞれ該当する欄1つに ) n=1,747 n=1,570

お 付 き 合 い の 程 度	現 在	今 後
1 . 互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	15.5	27.8
2 . 互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	47.1	48.8
3 . 会話はほとんどしないが、あったらあいさつはする程度	33.4	21.7
4 . ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	3.9	1.7

お子さん(0~15歳未満)がいる方におたずねします  
(2人以上いる方は年齢が一番下のお子さんについてお答えください)

問 9 . お子さんの年齢をご記入ください。(数字を記入ください)  歳

問 10 . 過去1年の間に、お子さんが自宅以外で、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに )

けがをした状況	n=344 n=107 n=59		
	該当するものに	大人がいた場合に	医療機関に行った場合に
1 . 海や川、プールなどでおぼれた	0.0	0.0	0.0
2 . 交通事故(単独、自転車・自動車の乗車中)	3.5	0.9	8.5
3 . 道路や歩道を走っていて転倒	17.7	39.3	11.9
4 . 公園(ブランコ・すべり台・鉄棒)でのけが	9.3	17.8	8.5
5 . 動物や虫などによるけが	3.8	8.4	5.1
6 . 人や物(例:電柱等)に衝突	3.2	7.5	1.7
7 . 階段や高所からの転落	3.5	8.4	3.4
8 . 建物や車両などのドアに挟まれたけが	0.9	2.8	5.1
9 . 学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)	14.8	28.0	39.0
10 . 保育園・幼稚園でのけが・事故	7.0	18.7	15.3
11 . その他(具体的に: )	4.7	8.4	16.9
12 . けがはしていない	54.4		

問 11 . 過去1年の間に、お子さんが自宅で、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに )

けがをした状況	n=323 n=70 n=22		
	該当するものに	大人がいた場合に	医療機関に行った場合に
1 . ベッドや椅子などから転落	8.0	35.7	13.6
2 . ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	0.6	1.4	0.0
3 . 階段から転落	3.7	11.4	9.1
4 . たばこやおもちゃなどの異物誤飲	0.9	4.3	0.0
5 . 就寝中の窒息	0.0	0.0	0.0
6 . 火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	2.2	7.1	13.6
7 . 入浴中の溺水	1.2	5.7	0.0
8 . 廊下や浴室などでの転倒	8.4	35.7	18.2
9 . 刃物や鋭利なものによるけが	4.0	11.4	13.6
10 . 家具や物に体をぶつけるなどの衝突	13.9	52.9	18.2
11 . ドアや窓、家具などで挟まれたけが	3.7	10.0	0.0
12 . 動物や虫などによるけが	2.5	5.7	9.1
13 . その他(具体的に: )	0.9	2.9	13.6
14 . けがはしていない	72.8		

## 個人票

15歳以上の方お一人ずつご記入ください。世帯票を記入された方もご記入ください。

### 事故やけがについておたずねします

問1. 自宅以外での、事故やけがの状況についてお聞きします。

1-1. 過去1年の間に自宅以外でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に あるいは数字を記入) n=3,611

	該当するものに	けがをした回数
1. けがはしていない	86.3	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	7.0	回
3. けがをして、医療機関に通院した	6.1	回
4. けがをして、医療機関に入院した	0.6	回

1-2. 1-1で、過去1年の間に自宅以外で「けがをした」と回答した方におたずねします。

けがをした原因はなんですか。n=469  
(当てはまるものすべてに 、そのうち、通院や入院したものには をつけてください)

1. 交通事故(11.8)      2. 転倒(54.8)      3. 転落(5.6)  
4. 接触または衝突(7.6)      5. 切傷・刺傷(24.5)      6. 挟まれた・加圧(8.4)  
7. 虫刺、咬傷(ハチ、動物など)(7.4)      8. その他( ) (8.7)

1-3. 1-1の「過去1年の間に自宅以外でけがをした」場所はどこですか。

(当てはまるものすべてに ) n=472

1. 道路・歩道(44.1)      2. 学校(6.1)      3. 勤務先(23.5)      4. 農地・林地(4.7)  
5. 公園(3.8)      6. 駅(2.3)      7. 商業・飲食・娯楽施設(6.1)  
8. スポーツ施設(7.6)      9. その他( ) (13.3)

問2. 自宅での、事故やけがの状況についてお聞きします。

2-1. 過去1年の間に自宅でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に あるいは数字を記入) n=3,262

	該当するものに	けがをした回数
1. けがはしていない	88.8	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	7.5	回
3. けがをして、医療機関に通院した	3.3	回
4. けがをして、医療機関に入院した	0.4	回

2-2. 2-1で、過去1年の間に自宅で「けがをした」と回答した方におたずねします。一番大きなけがをした原因はなんですか。(1つに ) n=349

1. 転倒(24.4)      2. 転落(6.0)      3. 切傷・刺傷(45.8)      4. 挟まれた・加圧(5.2)  
5. 火傷(7.7)      6. 異物誤飲(0.3)      7. その他( ) (10.6)

2-3. 「過去1年の間に自宅で一番大きなけがをした」場所はどこですか。(1つに ) n=326

1. 居室(25.5)    2. 廊下(4.0)    3. 階段(8.9)    4. トイレ(1.2)  
 5. 浴室(3.7)    6. 台所(40.5)    7. 庭(10.1)    8. その他( ) (6.1)

犯罪被害や不安などについておたずねします

問3. あなたがお住まいの地域の治安について、1年前と比べてよくなったとおもいますか、悪くなったとおもいますか。(1つに ) n=3,459

1. 良くなった(4.7)    2. 変わらない(71.9)    3. 悪くなった(11.1)    4. わからない(12.3)

問4. あなたは、日頃、ご自身や家族が犯罪被害などにあうのではないかと不安をどの程度感じていますか。(ア～トのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに )  
 なお、該当しない場合(自転車、パソコンを持っていない、子どもはいない等)は、「5」をつけてください。

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア. 暴行や傷害などの暴力的な犯罪にあう不安	3,349	5.4	9.1	51.3	34.2
イ. 自宅にどろぼう(空き巣など)に入られる不安	3,472	9.5	18.2	54.9	17.5
ウ. ひったくりにあう不安	3,396	5.5	12.6	50.1	31.9
エ. 自転車を盗まれる不安	2,523	9.1	17.3	46.2	27.4
オ. 自動車やオートバイを盗まれる不安	2,654	8.4	13.8	49.0	28.8
カ. 自動車内の部品や金品を盗まれる不安	2,785	8.0	13.3	50.6	28.1
キ. 痴漢にあう不安	3,320	4.3	9.2	34.3	52.1
ク. 振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安	3,423	5.1	11.5	40.1	43.2
ケ. 自宅や自動車などが落書きをされたり、壊されたりする不安	3,384	5.7	10.9	44.7	38.7
コ. 不審者に声をかけられるなどの不安	3,383	5.6	10.6	43.2	40.6
サ. 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安	1,854	18.3	21.1	36.6	23.9
シ. 人につきまとわれたり、のぞかれたりする不安	3,369	4.9	10.7	41.3	43.0
ス. インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安	2,753	9.2	19.4	45.6	25.8
セ. 凶悪犯罪(殺人、放火、強盗、強姦)にまきこまれる不安	3,378	6.5	9.9	48.4	35.2
ソ. 地震や風水害にあう不安	3,454	16.1	26.1	45.6	12.2
タ. テロに巻き込まれる不安	3,360	3.8	5.5	33.6	57.1
チ. 飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安	3,425	10.5	18.8	53.3	17.3
ツ. いやがらせやいたずらなどをされる不安	3,380	5.8	10.7	47.8	35.7
テ. その他の不安(具体的に )	1,977	4.0	4.4	16.4	75.1
ト. 全体的に	2,838	2.6	11.2	55.0	31.1

問5．あなたがお住まいの地域の状況について、不安をどの程度感じていますか。

(ア～ソのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに )

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア．空きビルや空き店舗、使われていない倉庫がある	3,375	2.0	5.5	23.3	69.1
イ．繁華街での客引き、キャッチセールスが目に付く	3,366	4.4	8.7	27.8	59.1
ウ．夜、街灯が暗いところがある	3,443	12.2	22.0	42.5	23.3
エ．木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある	3,425	8.7	17.3	40.1	33.9
オ．人通りの少ない道	3,443	12.3	22.6	46.1	19.0
カ．風俗産業などの看板やチラシなどが目に付く	3,381	4.0	7.5	23.6	64.8
キ．スプレーによる落書きがある	3,396	4.2	9.2	35.3	51.2
ク．ごみやタバコの吸殻が散乱している	3,421	4.6	11.5	39.4	44.5
ケ．路上への違法駐車や放置自転車がある	3,420	5.3	12.7	40.0	42.0
コ．少年などのたむろ、たまり場がある	3,406	5.4	10.1	33.7	50.9
サ．近所づきあいのない人がいる	3,393	3.7	9.6	42.3	44.4
シ．ゴミ出しルールや騒音を出すなど、地域のルールやマナーを守らない人がいる	3,441	7.4	13.7	38.8	40.1
ス．近所にトラブルを起こす人がいる	3,387	3.7	6.0	27.7	62.6
セ．その他の不安(具体的に )	1,984	4.8	3.3	13.1	78.7
ソ．全体的に	2,779	1.6	8.2	45.9	44.3

問6．あなたは、犯罪被害に巻き込まれないために、どのような対策をとっていますか。

(当てはまるものすべてに ) n=3,566

- 1．夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする(42.3)
- 2．外出時に玄関や窓に鍵をかける(93.4)
- 3．夜間に門灯・玄関灯をつける(39.4)
- 4．街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する(28.7)
- 5．センサーライトの設置(25.1)
- 6．留守にするときには隣近所に声をかける(13.6)
- 7．自転車の防犯登録(41.5)
- 8．警備会社のホームセキュリティサービスの利用(4.5)
- 9．地域パトロール活動への参加(10.0)
- 10．市が発信している防犯・防災情報「ケータイ SOS ネット」に登録している(5.2)
- 11．家財の盗難など犯罪被害にあったときのための損害賠償保険(任意)に加入している(16.9)
- 12．防犯ブザー等の防犯グッズを携帯している(7.3)
- 13．その他( ) (2.0)
- 14．特になにもしていない(2.9)

問7．犯罪を抑止するための対策として、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思いますか。(ア～キのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに )

項目	n	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない
ア．個人の防犯対策	3,475	68.4	28.7	2.1	0.8
イ．地域住民の防犯ボランティア	3,395	33.4	56.6	8.3	1.7
ウ．自治体の防犯活動への取組	3,412	45.1	48.2	5.7	0.9
エ．市民と行政との協働による犯罪抑止への取組	3,413	50.1	44.5	4.6	0.7
オ．警察の防犯活動の充実	3,457	71.6	25.7	2.4	0.3
カ．企業や事業者による地域の防犯活動への取組	3,356	32.6	53.0	12.1	2.3
キ．学校における防犯対策	3,374	58.8	35.6	4.6	1.0

### 自転車の利用についておたずねします

問8．あなたは自転車を利用していますか。(どちらかに ) n=3,570

- 1．利用している (問9～問16をお答えください。)(42.0)
- 2．利用していない(自転車の利用について質問は以上です。問17にお進みください。)(58.0)

問9．主にどのようなときに自転車を利用していますか。(1つに ) n=1,478

- 1．通勤・通学(29.9)
- 2．買い物・飲食(48.4)
- 3．余暇活動(14.5)
- 4．子どもの送り迎え(0.9)
- 5．業務(仕事)(2.5)
- 6．その他( ) (3.9)

問10．自転車をどれくらいの頻度で利用していますか。(1つに ) n=1,485

- 1．ほぼ毎日(29.7)
- 2．週に3～5回(23.0)
- 3．週に1～2回(19.7)
- 4．月に数回(17.9)
- 5．年に数回(9.7)

問11．次の自転車の利用、交通ルールについてご存知ですか。(知っているものすべてに ) n=1,484

- 1．道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられ、車道通行が原則(92.1)
- 2．車道では左側を通行(93.9)
- 3．歩道では歩行者優先で、車道寄りを走行(86.7)
- 4．飲酒運転の禁止(94.0)
- 5．二人乗りの禁止(6歳未満の子ども一人の場合を除く)(94.3)
- 6．並進の禁止(「並進可」標識のある場所を除く)(76.3)
- 7．夜間はライトを点灯(97.7)
- 8．信号を守る(99.1)
- 9．交差点での一時停止と安全確認(89.8)
- 10．子ども(13歳未満)はヘルメットを着用(62.2)
- 11．運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止(92.0)
- 12．知っているものはない(0.1)

問 12 . 普段、自転車を利用しているときに、どのようなことで不安や危険を感じますか。  
 (最も当てはまるもの3つまで ) n=1,476

- 1 . 車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと(53.7)
- 2 . 歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること(55.7)
- 3 . 信号のない交差点や、カーブなどによる見通しの悪い道路(37.9)
- 4 . 街灯がなく、暗い道で走行すること(16.3)
- 5 . 道幅いっぱいに広がって歩く歩行者(32.9)
- 6 . 自転車や自動車との出会いがしらでの衝突の危険性(24.2)
- 7 . 他の自転車利用者のスピードの出し過ぎ(15.1)
- 8 . 路上の放置自転車や看板などの障害物(4.1)
- 9 . 信号や一時停止の無視など交通ルールが守られていない(13.6)
- 10 . 乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下(23.1)
- 11 . 自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害(7.0)
- 12 . その他 ( ) (2.2)
- 13 . 特に感じない(1.2)

問 13 . 自転車を利用して、過去5年間に、転倒や接触、衝突などによる、けがや事故の経験はありますか。ある方は件数をお書きください。(どちらかに ) n=1,459

	過去5年間の件数
1 . ある(15.1)	件
2 . ない(84.9)	

問 14 へ

問 15 へ

問 14 .過去5年間に、自転車を利用しておきた最も大きなけがや事故についておたずねします。

14-1 . けがや事故がおきたのはいつですか。( 1つに ) n=205

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 . 今年(2014年)(26.8)    | 2 . 平成25年(2013年)(16.6) |
| 3 . 平成24年(2012年)(12.2) | 4 . 平成23年(2011年)(15.6) |
| 5 . 平成22年(2010年)(12.7) | 6 . おぼえていない(16.1)      |

14-2 . けがや事故がおきた時間帯はいつですか。( 1つに ) n=206

- 1 . 早朝(5:00頃~7:00頃)(1.9)
- 2 . 朝の通勤・通学時間帯(21.4)
- 3 . 昼間(通勤・通学時間以外)(39.8)
- 4 . 夕方の帰宅時間帯(21.4)
- 5 . 夜間(19:00頃~22:00頃)(12.1)
- 6 . 深夜(22:00頃~5:00頃)(3.4)

14-3 . けがや事故の状況は。( 1つに ) n=207

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 . 自分だけ転倒した(55.6)      | 2 . 歩行者と接触・衝突した(1.9)      |
| 3 . 自転車同士で接触・衝突した(17.4) | 4 . 自動車やバイクと接触・衝突した(20.8) |
| 5 . その他( ) (4.3)        |                           |

14-4. けがや事故がおこった原因は。( 当てはまるものすべてに ) n=208

1. 道路が狭かった(20.7)
2. 通行量が多かった(7.2)
3. 道路に段差があった(34.1)
4. 歩道と車道の区分がなかった(7.2)
5. 信号や標識、カーブミラーがなく見通しが悪かった(12.0)
6. 街灯がなく、道路が暗かった(11.1)
7. 歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた(3.8)
8. 携帯電話(自分あるいは相手が)をかけていた(1.9)
9. 子どもを乗せていてバランスを崩した(3.4)
10. 出会いがしらでの衝突(16.3)
11. スピードを出し過ぎていた(12.0)
12. 信号や一時停止の無視など交通ルールを守らなかった(4.3)
13. 横断歩道のない場所で車道を横断した(1.4)
14. 路上に放置自転車や看板などの障害物があった(4.8)
15. その他( ) (27.9)
16. 相手に過失があり、原因はわからない(7.2)

14-5. けがや事故がおきた場所は。( 1つに ) n=208

1. 歩道(43.8)
2. 車道(31.7)
3. 交差点(13.0)
4. 駐輪場や駐車場の中や周辺(2.9)
5. その他( ) (8.7)

14-6. けがをした体の箇所は。( 当てはまるものすべてに ) n=207

1. 頭部(7.7)
2. 顔部(6.3)
3. 頸部(1.9)
4. 胸部(2.9)
5. 背部(3.4)
6. 腰部(7.2)
7. 腹部(2.4)
8. 腕部(36.7)
9. 脚部(48.8)
10. けがをしていない(19.3)

14-7. 医療機関で手当てを受けましたか。( 1つに ) n=201

1. 医療機関には行ってない(65.7)
2. 通院により手当を受けた(30.3)
3. 入院して手当を受けた(4.0)

問 15. あなたが自転車利用の不安や危険を減少させるために日頃していることはありますか。  
( 当てはまるものすべてに ) n=1,456

1. 不安や危険を感じる箇所はなるべく走行しないようにしている(56.7)
2. 交通ルール、マナーを守る(85.2)
3. 路上駐輪はしない(47.8)
4. 自分がヘルメットを着用する(3.4)
5. 子どもにヘルメットを着用させる(14.6)
6. 自転車を離れるときは鍵をかける(87.8)
7. 自転車の防犯登録(68.4)
8. 自転車を盗まれたり、事故にあった(おこしてしまった)ときのために、損害賠償保険(任意)に加入している(20.9)
9. その他( ) (2.3)
10. 特になにもしていない(1.6)

問 16 . 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことはどのようなことでしょうか。  
 ( 当てはまるものすべてに ) n=1,396

- 1 . 事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる (65.1)
- 2 . 交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する (61.4)
- 3 . 事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる (58.6)
- 4 . 違反者への罰則を強化する (41.0)
- 5 . ヘルメットの着用や鍵かけなどの予防対策を充実する (31.7)
- 6 . その他 ( ) (5.0)

災害についておたずねします

問17 . あなたは、どのような災害に不安を感じていますか。  
 ( ア～カのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに )

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア . 地震による被害	3,555	47.3	29.1	20.6	3.0
イ . 風水害 ( 台風・豪雨・竜巻 )	3,432	25.2	29.3	37.4	8.1
ウ . 土砂災害	3,259	8.1	11.0	34.7	46.2
エ . 火災	3,424	23.0	26.4	43.8	6.8
オ . 落雷による被害	3,378	16.7	21.3	46.4	15.5
カ . その他 ( )	1,019	6.6	5.5	13.2	74.7

問18 . あなたは、災害時の対策や備えとして、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思えますか。( ア～クのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに )

項 目	n	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない
ア . 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意	3,528	65.1	31.6	2.7	0.7
イ . 消火器の用意や火災警報器の設置	3,475	55.5	39.7	4.1	0.7
ウ . 避難訓練や自主防災組織への参加	3,435	31.0	57.1	9.9	2.0
エ . 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い	3,396	24.0	57.4	16.0	2.7
オ . 職場や家庭での連絡方法の確認	3,423	55.9	39.5	3.6	1.0
カ . 行政 ( 市、消防、警察など ) による応急活動	3,426	65.4	31.2	2.9	0.6
キ . 避難所や避難経路等の整備	3,424	62.2	33.8	3.4	0.6
ク . 災害弱者や要援護者の支援体制	3,414	61.8	34.5	3.1	0.6

問19．あなたは、どのような災害への自己対策をしていますか。( 当てはまるものすべてに )

n=3,661

- 1．非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意(78.9)
- 2．消火器の用意(47.7)
- 3．火災警報器の設置(62.0)
- 4．避難経路・避難場所の確認(43.7)
- 5．家具などの転倒防止対策(45.4)
- 6．避難訓練や自主防災組織への参加(24.2)
- 7．家族との連絡方法の確認(53.3)
- 8．地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い(7.8)
- 9．建物の耐震化・壁の補強など(15.1)
- 10．ガラスの飛散防止(10.2)
- 11．その他( ) (1.0)
- 12．特になにもしていない(6.0)

問20．問19で「12．特になにもしていない」と答えた人におたずねします。

災害への自己対策をしていないのはなぜですか。( 当てはまるものすべてに ) n=210

- 1．これからやろうと思っている(32.9)
- 2．どのようなことをすればよいのか分からないから(29.0)
- 3．対策にお金がかかるから(28.1)
- 4．対策をする時間がなく、面倒だから(28.6)
- 5．地震が起こるとは思っていないから(2.9)
- 6．その他( ) (14.3)

問21．水や食料などの非常用備蓄品の状況についておたずねします。( 1つに ) n=3,559

- 1．1日分の備蓄をしている(15.7)
- 2．2日分の備蓄をしている(20.8)
- 3．3日分の備蓄をしている(32.8)
- 4．7日以上分の備蓄をしている(8.6)
- 5．特になにもしていない(22.1)

あなたの基本的なことについておたずねします

問22．性別( 1つに ) n=3,654

- 1．男性(45.4)    2．女性(53.6)    3．答えたくない(1.0)

問23．年齢(平成26年8月1日現在で、 1つに ) n=3,673

- 1．15～19歳(3.8)    2．20～24歳(4.0)    3．25～29歳(4.1)    4．30～34歳(7.1)  
5．35～39歳(7.9)    6．40～44歳(8.4)    7．45～49歳(7.3)    8．50～54歳(5.8)  
9．55～59歳(6.4)    10．60～64歳(9.8)    11．65～69歳(12.2)    12．70～74歳(10.9)  
13．75～79歳(7.0)    14．80歳以上(5.4)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

安全・健康・コミュニティに関する調査 報告書

平成27年1月

発行 / 厚木市危機管理部セーフコミュニティ推進課

〒243-8511 厚木市中町3丁目17番17号

電話 (046) 225 - 2865 (直通)

実施 / 株式会社エスピー研

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番20号

電話 (03) 3239 - 0071